

3

運転するとき

スイッチの使いかた

エンジンスイッチ	3-2
ライティングスイッチ	3-4
ヘッドランプレベラー（光軸調整機構）	3-7
方向指示レバー	3-10
フォグランプスイッチ	3-10
ワイパー&ウオッシャースイッチ	3-11
ヘッドランプウオッシャー	3-16
リヤウインドウデフォグガー（曇り取り）	3-16
フロントワイパーデアイサー	3-18
非常点滅灯（ハザードランプ）スイッチ	3-20
ホーンスイッチ	3-20
イルミネーションコントロールダイヤル	3-21
ブライト（減光キャンセル）機能	3-21

メーター、表示灯、警告灯の見かた

メーター	3-22
表示灯	3-26
警告灯	3-30

運転装置の使いかた

エンジンの始動と停止のしかた	3-38
駐車ブレーキ	3-40

マニュアル車の運転

チェンジレバー	3-41
ヒルスタートアシスト	3-42

CVT車の運転

セレクトレバー	3-45
運転手順	3-50
マニュアルモード	3-54
Lレンジ	3-57
[S]モード	3-57

アイドリングストップ

アイドリングストップ（オートスタートストップ）	3-58
-------------------------	------

AWD車の運転

運転するとき	3-65
ビスカスLSD付センターデフ方式フルタイムAWD	3-66
アクティブトルクスプリットAWD	3-66

クルーズコントロール

ブレーキ

アンチロックブレーキシステム：ABS	3-72
ブレーキブースター（制動力倍力装置）	3-74
ブレーキオーバーライド	3-75
ブレーキアシスト	3-75

VDC

VDC（ビークルダイナミクスコントロール）	3-76
-----------------------	------

リヤビューカメラ

リヤビューカメラの位置	3-82
リヤビューカメラの使用法	3-83
画面に映る範囲	3-83
距離・車幅マーカー（補助線）	3-85
故障かなと思ったら	3-86

ハンドル

パワーステアリング	3-87
-----------	------

スイッチの使いかた

エンジンスイッチ

☆キーレスアクセス&プッシュスタート装備車は、2-14ページをご覧ください。

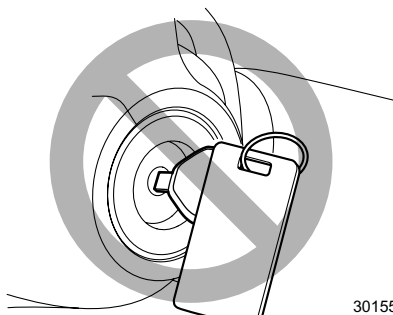
警告

走行中LOCKにしないでください。キーが抜けるとハンドルが固定され、操作できなくなり、重大な事故につながるおそれがあります。

注意

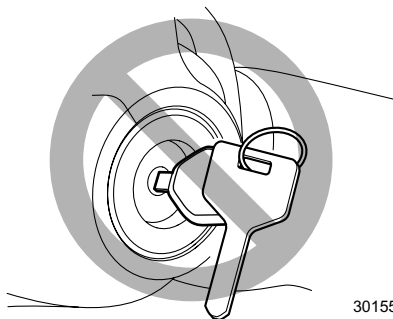
- キーグリップにキーホルダーや他のキーがかさなると、膝や手などが当たり、キーを回してしまうおそれがありますので注意してください。大型のキーホルダーはキーに付けしないでください。てこの原理で小さな力でも回してしまうおそれがあります。
- キーホルダーや他のキーを多数付けしないでください。また、重い物をキーに付けしないでください。車両の動きにより遠心力が働き、キーを回してしまうおそれがあります。

キーグリップにキーホルダーやアクセサリがかさなっているとき



301555

キーグリップに他のキーがかさなっているとき

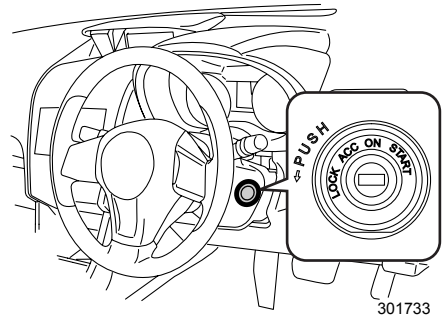


301556

 **アドバイス**

- エンジンを止めているときは、スイッチをLOCKにしてください。
- 長時間ONにしたり、ACCにして電装品を使うとバッテリー上がりの原因になります。
- キーが LOCK から ACC に回らないときはハンドルを左右に回しながらキーを操作してください。

■ 各位置の働き

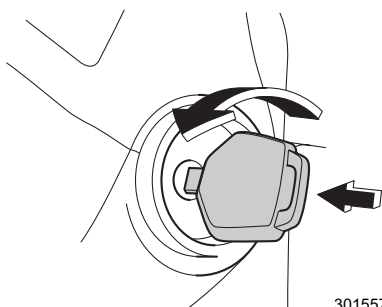


運転するよび

LOCK (ロック)	キーの抜き差しができる位置 キーを抜くとハンドルがロックされます
PUSH (プッシュ)	電源が切れる位置 LOCKへ回転させるときはキーを押し込みます
ACC (アクセサリー)	エンジン停止時、次の電装品が使用できる位置 オーディオ、電源ソケットなど
ON (オン)	全ての電装品が使用できる位置 エンジン始動後はこの位置になります
START (スタート)	エンジンを始動する位置

■キーを抜くとき

CVT車は、セレクトレバーを[P]にしてください。ACCの位置からキーを押し込みながらLOCKに回してください。



■キー抜き忘れ警報

キーをエンジンスイッチに差したまま運転席ドアを開けるとブザーが鳴ります。ただし、エンジンスイッチがONのときは鳴りません。



アドバイス

車外に出るときには、必ずキーを持っていることを確認して施錠してください。

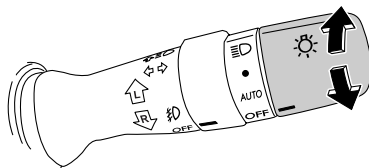
■エンジンキー照明 (イグニッションキー照明)

エンジンスイッチの周辺が点灯します。

運転席のドアを開けたとき点灯し、閉めた後も一定時間点灯し、その後徐々に消灯していきます。

ライティングスイッチ

エンジンスイッチがONのとき、スイッチを回すと次のようにランプが点灯します。



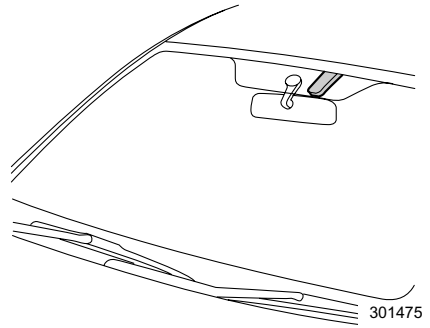
スイッチの位置	ヘッドランプ	車幅灯、尾灯、番号表示灯
☺	点灯	
●	消灯	点灯
AUTO ☺	自動点灯または消灯	自動点灯または消灯
OFF	消灯	

■オートライト☺

オートライトセンサーは、フロントガラス上部にあります。

エンジンスイッチがONのとき、ライティングスイッチをAUTOの位置にすると、周囲の明るさに応じて各ランプが点灯または消灯します。車外が暗くなると、まず車幅灯、尾灯、番号表示灯が自動的に点灯します。さらに暗くなるとヘッドランプが点灯します。車外が明るくなると、逆の順に消灯します。

ランプ類が点灯したとき、メーター内の表示灯が点灯します。



●オートライトの自動点灯・消灯感度のカスタマイズ

オートライトの自動点灯および消灯の感度を、4段階で設定することができます。

☆1-3ページ参照

⚠ 注意

エンジン停止中はランプ類を長時間点灯させないでください。また、車から離れるときは、必ずライティングスイッチをOFFにしてください。バッテリー上がりの原因となります。

🏠 アドバイス

ランプ類が点灯しているときに、以下の操作を行うと自動的にランプ類は消灯します。

- プッシュエンジンスイッチを押して電源をOFFにしたとき（キーレスアクセス装備車）
- キーを抜いたとき（キーレスアクセス装備車以外）

次ページへ ⇒

⇒前ページより

自動的に消灯した場合、プッシュエンジンスイッチを押す、もしくはキーを差すと、ランプが再び点灯します。AUTO位置のときは周囲の明るさに応じて点灯します。

また、電源がOFF、またはキーを抜いた状態でも、ライティングスイッチをOFFにしてから再度 ● または ☐ にするとランプが点灯します。

オートライト装備車は、次のような特徴があります。

- センサーをふさぐようなものをフロントガラス上部に貼ると、正常に作動しない場合があります。
- 昼間に濃い霧などが発生して視界が悪いときでも、自動で点灯しない場合があります。このときは手で点灯してください。
- スイッチがAUTOの場合、連続したトンネルの出口と入口の間隔が短いときはランプが点灯し続けます。
- スイッチがAUTOの場合でも短いトンネルでは点灯しません。
- エンジンスイッチがONでライティングスイッチがAUTOのとき、システムに異常があると、周囲が明るい場合でもランプ類が点灯します。この場合はライティングスイッチをAUTO以外にする、またはキーをOFF (LOCK) にするとランプ類が消灯します。すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
- 強い電磁波などにより誤作動することがあります。

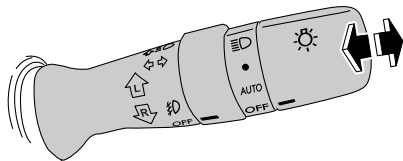
■ ランプ消し忘れ警報

電源がOFF、またはキーを抜いた状態でランプ類が点灯しているときに、運転席ドアを開けるとブザーが鳴ります。

■ ヘッドランプの上下を切り替えるとき

ヘッドランプが点灯しているとき、レバーを前に押しと上向きになります。上向き点灯中はメーター内のハイビーム/パッシング表示灯が点灯します。

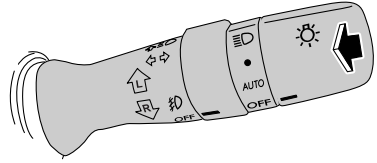
レバーを元に戻すと下向きになります。



301735

■合図のしかた（パッシング）

レバーを手前に引くとヘッドランプは上向きになります。上向き点灯中はメーター内のハイビーム／パッシング表示灯が点灯します。ライティングスイッチがOFFでも使えます。



301736



アドバイス

自動的にランプ類が消灯した場合、ハイビーム／パッシング表示灯は点灯しません。

☆3-10ページ参照

ヘッドランプレベラー（光軸調整機構）

■オートヘッドランプレベラー

ヘッドランプにHID（高輝度放電）ランプが装備されている車には、オートヘッドランプレベラー（自動光軸調整機構）がついています。

ヘッドランプの照射方向が正しく調整されていないと、対向車や前を走る車の迷惑になります。そのため、同乗者および積載量から自動的に照射方向を調整し、最適に保ちます。



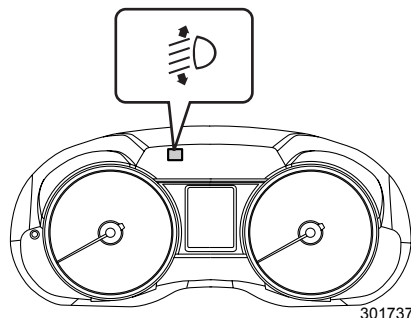
警告

HIDバルブは、高電圧を使用しています。感電防止のため、ランプを分解したり、改造したりしないでください。電球の脱着、交換はスバル販売店にご相談ください。

●オートヘッドランプレベラー警告灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、約3秒後に消灯します。

エンジン回転中、オートヘッドランプレベラー（自動光軸調整機構）の電子制御システムに異常があると点灯します。



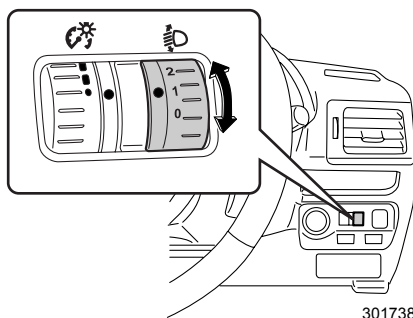
⚠ 注意

オートヘッドランプレベラー警告灯が点灯したときは、照射方向の自動調整が行われない場合があります。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

■マニュアルヘッドランプレベラー

ヘッドランプにハロゲンランプが装備されている車には、マニュアルヘッドランプレベラー（光軸調整ダイヤル）がついています。ヘッドランプの下向き点灯時に使います。エンジンスイッチがONのとき使用できます。

- 同乗者および積載量によってヘッドランプが上向きを照らすことがあります。このようなとき、対向車の運転の妨げになるため、光軸調整ダイヤルを調整し、ヘッドランプが照らす向きを下側にしてください。
- ダイヤルの目盛りが大きくなるほどヘッドランプが照らす向きは下側になります。



- 乗車人数、荷室への積載状態に応じて、下の表を参考にダイヤル位置を調整してください。
4ドア

ダイヤル位置	前席乗車人数	後席乗車人数	荷室への積載
0	1名もしくは2名	0名	無
1	2名	3名	無
2	2名	3名	有 [※]
3	1名	0名	有 [※]
4	—	—	—
5	—	—	—

※荷室満載にした場合

5ドア

ダイヤル位置	前席乗車人数	後席乗車人数	荷室への積載
0	1名もしくは2名	0名	無
1	2名	3名	無
2	2名	3名	有 [※]
3	1名	0名	有 [※]
4	—	—	—
5	—	—	—

※荷室満載にした場合



アドバイス

- ヘッドランプの照射方向が正しく調整されていないと、対向車や前を走る車に迷惑をかけることになります。対向車のフロントガラスや前を走る車のミラーを照らしているときは、光軸調整ダイヤルを操作してヘッドランプを下向きに調整してください。
- ハロゲンヘッドランプの光軸調整をするときは、光軸調整ダイヤルを「0」の位置にしてから行ってください。

方向指示レバー

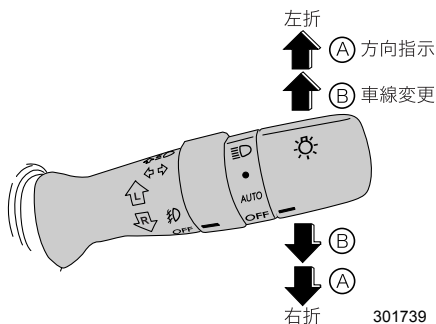
エンジンスイッチがON のとき、レバーをⒶの位置まで動かすと方向指示器とメーター内の表示灯が点滅します。

右折あるいは左折後、ハンドルを戻すと自動的に戻りますが、戻らないときは手で戻してください。

車線変更の合図をするときは、Ⓑの位置で軽く押さえていると方向指示器とメーター内の表示灯が点滅します。

手を離すと元の位置に戻ります。

☆3-26ページ参照



🏠 アドバイス

方向指示器の電球が切れたとき、またワット数の異なった電球を使用すると点滅の早さが異常になります。

すみやかに点検し、異常のある電球を交換してください。

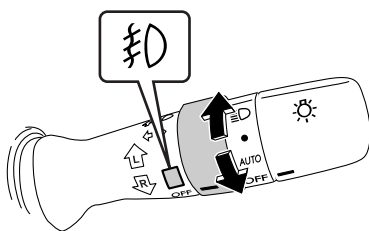
☆6-22ページ参照

フォグランプスイッチ

郊外や山間部での濃霧などで見通しが悪いときに使用してください。

メーター内のライティングスイッチ表示灯が点灯しているとき、スイッチをⒶの位置まで回すとフロントフォグランプが点灯します。

フロントフォグランプ点灯中はメーター内のフロントフォグランプ表示灯が点灯します。



🏠 アドバイス

フロントフォグランプは、光束が拡散するように設計しているので、ヘッドランプの代わりにはなりません。また、使用方法を誤ると、まわりの車や対向車へ迷惑をかけることになります。郊外や山間部での濃霧などで見通しが悪いときだけ使用してください。

ワイパー&ウォッシャースイッチ

エンジンスイッチがONのときに使用できます。

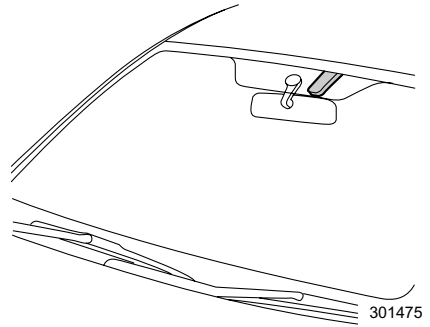
■フロントワイパーの作動

レバーを押し上げる、または押し下げることによって、ワイパーが作動します。

●オートワイパー装備車

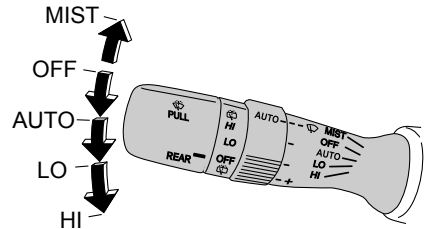
雨滴感知センサーは、フロントガラス上部にあります。雨滴量に応じてワイパーの作動を自動調整します。

ワイパーを使用しない場合は、スイッチをOFFにしてください。



301475

MIST	手動で作動
OFF	停止
AUTO	雨滴量により自動作動
LO	低速連続作動
HI	高速連続作動

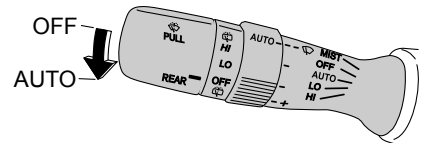


301741

▼オート作動

レバーを1段押し下げます。(AUTO位置)
雨滴量に応じて、次のようにワイパーが作動します。

雨滴量	作動状態
なし	停止
少量	間欠作動 (車速に応じて変わります)
普通	低速連続作動
多量	高速連続作動



301742

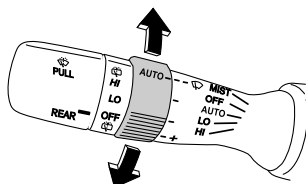
次ページへ ⇒

スイッチの使いかた

⇒前ページより

リングを回すと、雨滴量に反応するセンサーの感度を次のように調整できます。

リング位置	感度
－側	低
＋側	高



301743

▼オートワイパーのカスタマイズ

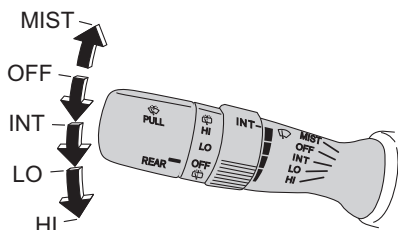
オートワイパーのAUTO/間欠作動の設定を変更することができます。

☆1-3ページ参照

リングを回すと、間欠作動の間隔を調整できます。

●オートワイパー装備車以外🔊

MIST	手動で作動
OFF	停止
INT	間欠作動
LO	低速連続作動
HI	高速連続作動



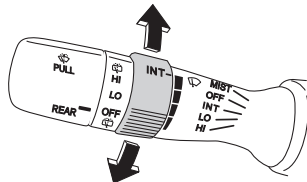
301744

▼間欠作動の時間調整

レバーを1段押し下げます。(INT位置)

リングを回すと、間欠作動の間隔を次のように調整できます。

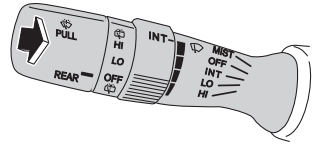
リング位置	作動間隔
上側	長
下側	短



301745

●フロントウォッシャー

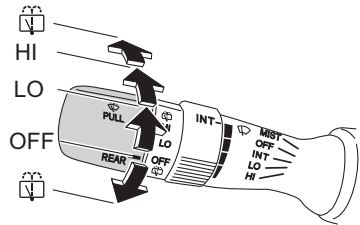
スイッチを手前に引いている間、ウォッシャー液が噴射します。このとき、ワイパーが1~2回転します。





301746

■リヤワイパー/ウォッシャーの作動

スイッチを回すと作動します。



301747

 (上側)	連続作動中にウォッシャー液が噴射します。 手を離すとHIに戻ります。
HI	高速連続作動
LO	低速連続作動
OFF	停止
 (下側)	ウォッシャー液が噴射し、ワイパーが動きます。 手を離すとOFFに戻ります。

注意

- ガラスが乾いているときにはワイパーを操作しないでください。ガラスに傷をつけることがあります。また、ワイパーブレードに傷がつき、拭き残しの原因となります。


オートワイパー装備車は、次のことに注意してください。

- エンジンスイッチがONでワイパースイッチがAUTOのとき、センサー周辺のフロントガラスに触れたり、水などを含んだ布を近づけないでください。洗車する場合は必ずスイッチをOFFにしてください。ワイパーが作動し、思わぬけがをすおそれがあります。
- 自動洗車機を使用する場合、必ずスイッチをOFFにしてください。ワイパーが作動し、上面ブラシに引っかかりワイパーなどが損傷するおそれがあります。

アドバイス

- ガラスに拭き残しができるときにはワイパーブレードのラバーを交換してください。

☆6-18ページ参照

- 寒冷地で屋外に駐車するときにはワイパーを立てておいてください。ワイパーブレードがガラスに凍りつくことを防止するためにワイパーアームを起こすときは、運転席側を先に起こしてから助手席側を起こしてください。戻すときは、助手席側のワイパーアームを先に戻してから運転席側のワイパーアームを戻してください。手順を間違えた場合、ワイパーアームが損傷する原因となります。
- ワイパーブレードがガラスに凍りついたときは、ぬるま湯をかけるか、以下の操作を行いガラスを暖めてください。
 - ー フロントガラスは、エアコンの吹き出し口切り替えスイッチを (デフロスター) にするか、フロントワイパーデアイサー（フロントワイパーデアイサー装備車）を使用してください。
 - ー リヤガラスは、リヤウインドウデフォグラーを使用してください。

☆3-16ページ参照

- 積雪などにより、ワイパーが途中で止まったときは、車を安全な場所に止めてワイパースイッチをOFF、エンジンスイッチをACCまたはLOCK (OFF) にし、ワイパーが作動できるように積雪などの障害物を取り除いてください。
- フロントワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。モーターの負担が大きい状況が続いたときなどには、ブレーカーが作動し、一時的にモーターが止まることがあります。その場合には、車を安全な場所に止めて、一度ワイパースイッチをOFFにしてください。10分ほどするとブレーカーが復帰して通常使用できるようになります。

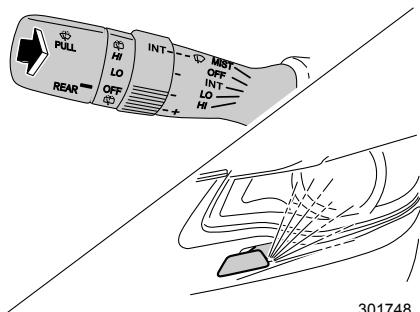
- フロントウォッシャーノズルの噴出範囲の調整はスバル販売店にご相談ください。
- ウォッシャー液が出ないとき、ウォッシャースイッチを押し続けるとポンプが故障するおそれがあります。ウォッシャー液量やノズルのつまりを点検してください。ゴミがつまるなど、ウォッシャー液が噴射できないときは、最寄りのスバル販売店にご連絡ください。

オートワイパー装備車は、次のような特徴があります。

- エンジンスイッチがONのとき、ワイパースイッチをAUTOにすると、作動確認のためワイパーが1回作動します。
- センサーまたはフロントガラスに振動があったり、虫や泥などの汚れが付着した場合は、ワイパーが作動することがあります。降雨時以外はスイッチをOFFにしてください。
- 雨滴または雪が降っていてもセンサーが感知しない場合、ワイパーは作動しません。その場合は、レバーをLOまたはHIに切り替えてください。
- 次の場合はセンサーが雨滴量を正確に感知できず、ワイパーが正常に作動しない場合があります。
 - － フロントガラスには水コーティングをしたとき
 - － フロントガラス上部が汚れているとき
 - － フロントガラス上部が氷結しているとき
- 車速に感応する間欠作動ワイパーが装備されています。停車中の作動間隔は、走行中に比べ長くなります。
- 雨滴量に変化しているときでもワイパーが一定間隔で作動している場合、雨滴感知センサーが故障しているおそれがあります。このようなときはワイパースイッチを手動で切り換えてください。オートワイパーの故障が考えられますので、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。
- 外気温が -15°C 以下の場合、降雪での使用を想定し、ワイパースイッチがAUTOでもワイパーが作動しないことがあります。その場合はAUTOモード以外でワイパーを使用してください。外気温が -10°C 以上になるとAUTO作動に復帰します。
- センサー周囲温度が 80°C 以上の場合、正しく雨滴を感知できないため、ワイパースイッチがAUTOでもワイパーが作動しないことがあります。その場合はAUTOモード以外でワイパーを使用してください。
- 強い電磁波により誤作動することがあります。

ヘッドランプウォッシャー

ヘッドランプが汚れたときに使用します。エンジンスイッチがONでライティングスイッチが D のとき、またはライティングスイッチがAUTOでヘッドランプが点灯しているとき（オートライト装備車）、フロントウォッシャーのスイッチを1秒以上手前に引くと、フロントウォッシャーと連動して作動します。ヘッドランプウォッシャーは約1秒間作動し、停止します。



アドバイス

- ウォッシャー液が出ないとき、ウォッシャースイッチを押し続けると、ポンプが故障するおそれがあります。ウォッシャー液量やノズルのつまりを点検してください。
- ゴミなどが詰まるなど、ウォッシャー液が噴射できないときは、最寄りのスバル販売店にご連絡ください。

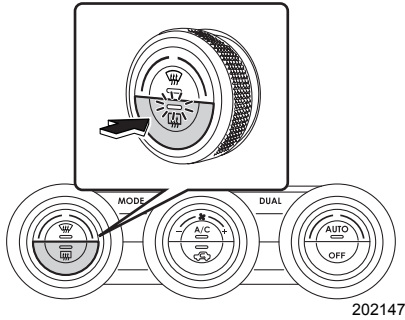
リヤウインドウデフォグガー（曇り取り）

エンジンスイッチがONのとき使用できます。スイッチはエアコンの操作パネルの中にあります。リヤガラスの内側が曇ったときに使用します。電熱線はリヤガラスにプリントしてあります。

使いかた

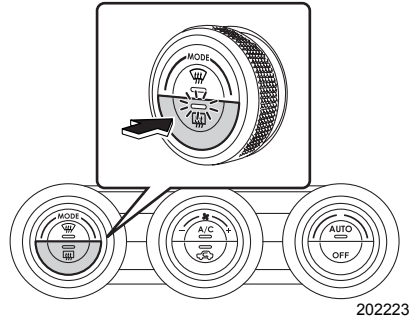
スイッチを押すと、スイッチ内の表示灯が点灯し、約15分後、自動的にOFFになります。作動中、途中で止めるときは、スイッチをもう一度押します。（表示灯が消灯します）

タイプA



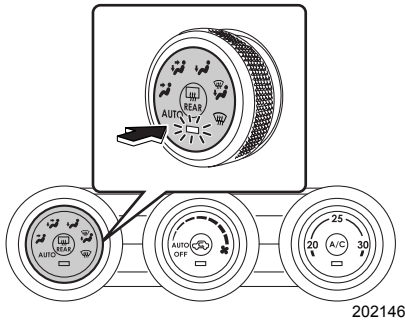
202147

タイプB



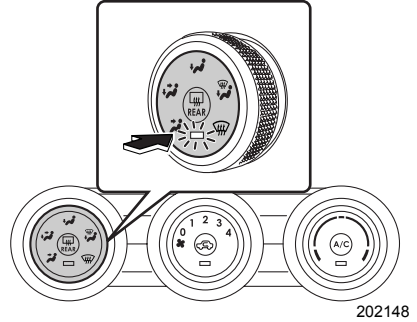
202223

タイプC



202146

タイプD



202148

運転するとき

●リヤウインドウデフォグガーのカスタマイズ

オートエアコン装備車はリヤウインドウデフォグガーを15分作動/連続作動に設定を変更することができます。

☆1-2ページ参照

 **アドバイス**

- 消費電力が大きいので長時間使うことや雪を溶かすような使いかたは避けてください。
- ガラス内側の清掃時、電熱線を切らないように水を含ませた柔らかい布で電熱線に沿って軽く拭いてください。ガラスクリーナー、洗剤は使わないでください。
- ヒートドドアミラー装備車は、リヤウインドウデフォグガースイッチを押すと、ヒートドドアミラーも連動して作動します。

☆2-122ページ参照

次ページへ ⇒

⇒前ページより

- フロントワイパーデアイサー装備車は、リヤウインドゥデフォグガススイッチを押すと、フロントワイパーデアイサーも同時に作動します。
- 連続作動は15分間作動し、2分間停止し、再度15分間作動を繰り返します。ただし、2分間の作動停止中も表示灯は点灯しています。
- 連続動作中にバッテリー電圧が低下すると連続作動は停止します。また、2分間の停止中にバッテリー電圧が低下したときも作動が停止します。

フロントワイパーデアイサー

エンジンスイッチがONのとき使用できます。リヤウインドゥデフォグと同時に作動します。

☆3-16ページ参照

フロントワイパーがガラスに凍結しているとき、ガラスを温めてワイパーが作動できるようにします。

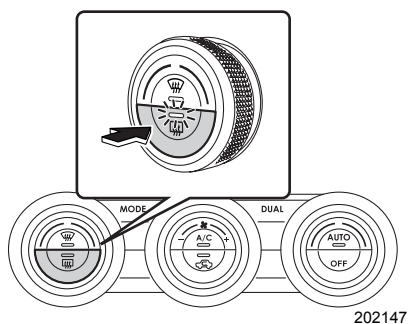
電熱線はフロントガラスの下部にプリントしてあります。

■使いかた

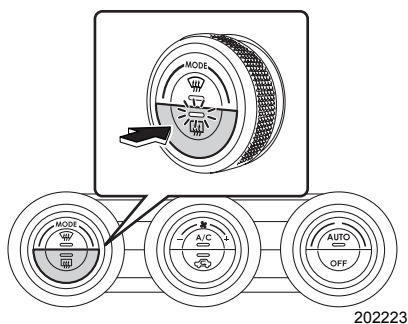
スイッチを押すとスイッチ内の表示灯が点灯し、フロントガラスの下側が温められます。約15分後、自動的にOFFになります。

途中で止めたいときは、もう一度押します。(表示灯が消灯します)

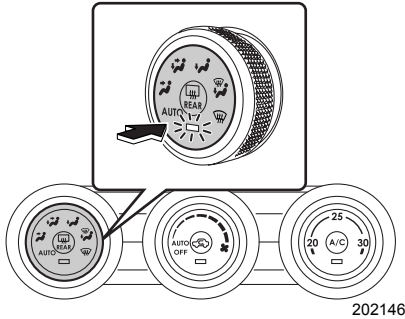
タイプA



タイプB



タイプC



●フロントワイパーデアイサーのカスタマイズ

リヤウインドウデフォグガーのカスタマイズに連動し、15分作動/連続作動に設定を変更することができます。

☆1-2ページ参照

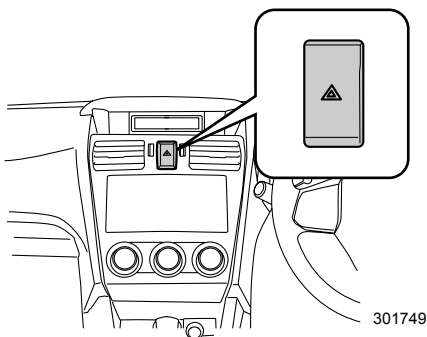
アドバイス

- 外気温度が5°C以上のとき、フロントワイパーデアイサーは作動しません。
- ワイパーデアイサーは消費電力が大きいので必要なとき以外はスイッチを切ってください。長時間使い続けると、バッテリー上がりの原因になります。
- 物が電熱線に当たらないように気をつけてください。
- 連続作動に設定していても、下記条件のときには、15分後に停止します。
 - ー 外気温度が5°C以上のとき
 - ー バッテリー電圧が低下したとき
- 連続作動に設定していても、車速15km/h以下が15分間続いたときには、自動的にOFFになります。

運転するとき

非常点滅灯（ハザードランプ）スイッチ

非常点滅灯（ハザードランプ）は、エンジンスイッチの位置に関係なく使用できます。スイッチを押すと、全ての方向指示器のランプが点滅します。故障などでやむを得ず路上に駐車するとき、他の車に自分の車の存在を知らせるために使います。

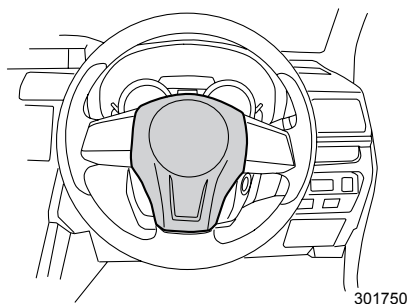


アドバイス

- 非常時にお使いください。
- 長時間、点滅したままにしないでください。バッテリー上がりの原因になります。

ホーンスイッチ

ハンドル中央のパッド面を押すとホーンが鳴ります。



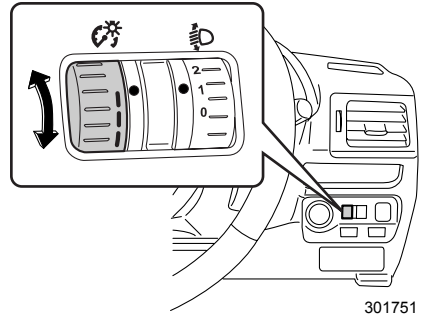
アドバイス

エンジンスイッチの位置に関係なくホーンを鳴らすことができます。

イルミネーションコントロールダイヤル

メーター内のライティングスイッチ表示灯が点灯しているとき、コントロールダイヤルを回すとコンビネーションメーター、エアコンパネル照明などの明るさを調整することができます。

- 上方向に回すと明るくなります。
- 下方向に回すと暗くなります。

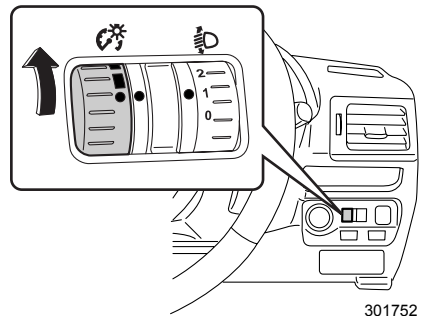


301751

ブライト（減光キャンセル）機能

メーター内のライティングスイッチ表示灯が点灯すると、表示部の明るさが一段減光し、暗くなります。昼間、ランプを点灯させて走るようなときで表示が見にくい場合は、減光をキャンセルし、明るくすることができます。

ダイヤルを一番明るい段階からさらに一段階（●印部分）、上方向に回すと減光がキャンセルされ、明るくなります。



301752

メーター、表示灯、警告灯の見かた

メーター

■メーターの初期作動

メーターは、エンジンスイッチをONにするとメーターの全ての指針が一度最大値を指し、すみやかに戻ります。(スワイプ機能)

アドバイス

メーターの初期作動(スワイプ機能)は作動あり/作動なしの設定ができます。
☆3-25ページ参照

■スピードメーター (速度計)

車の走行速度を示します。

アドバイス

速度警告装置はついていません。
スピードを出し過ぎないようにしてください。

■タコメーター (エンジン回転計)

毎分のエンジン回転数を示します。

注意

指針がレッドゾーン (エンジンの許容回転数を超えている範囲) に入らないように運転してください。
指針がレッドゾーンに入る運転を続けるとエンジンなどが損傷することがあります。

アドバイス

- アイドリング時に電気負荷が変動すると、エンジン回転数が変動することがあります。
- 極低速時、または停車時にハンドルを操作すると、エンジン回転数が変動することがあります。

■フューエルメーター（燃料計）

燃料の残量を示します。目盛りが「E」に近づいたら早めに給油をしてください。

☆2-54ページ参照



301648

注意

燃料給油するときは、必ずエンジンを止めてください。

☆1-29ページ参照

アドバイス

- エンジンスイッチがONのとき、燃料の残量を示します。ON以外の場合はトリップ切り替え/トリップリセットノブを押すと一定時間燃料の残量を表示します。
- 給油後の残量はエンジンを始動すると示します。また、目盛りが安定するまでしばらく時間がかかります。
- 目盛りと消費量（残量）の関係は必ずしも正確ではありません。目安として活用してください。
- 坂道やカーブ、急発進、急停車などではタンク内の燃料が移動するため、目盛りが変わることがあります。
- エンジンスイッチがONのまま燃料を補給すると、正しい燃料残量が表示されません。
- 給油量が少ない場合（約 15L 以下）、目盛りが安定するまでしばらく時間がかかります。

運転するとき

メーター、表示灯、警告灯の見かた

■オドメーター（積算距離計）

走行した総距離をkmで表示します。

00 1228

301429

アドバイス

エンジンスイッチがON以外の位置でもトリップ切り替え/トリップリセットノブを押すと、一定時間バックランプが点灯し、オドメーター・トリップメーターが表示されます。

■トリップメーター（区間距離計）

ある区間に走行した距離を知りたいとき使います。

表示範囲：0.0 km～9999 km

A 122.8

B 119.4

301430

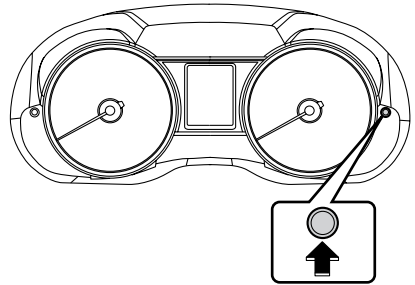
アドバイス

エンジンスイッチがON以外の位置でもトリップ切り替え/トリップリセットノブを押すと、一定時間バックランプが点灯し、オドメーター・トリップメーターが表示されます。

●オドメーター、トリップA、B切り替え

トリップ切り替え／トリップリセットノブを押すごとに、次のように表示が切り替わります。

TRIP[A] ←→ TRIP[B]



301753

●トリップメーターを0に戻すとき

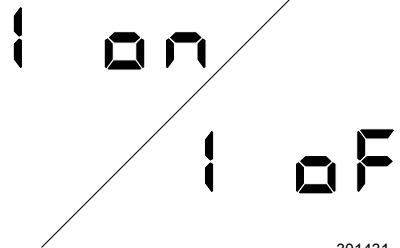
トリップAまたはトリップBのうち、リセットしたい方を表示させ、トリップ切り替え／トリップリセットノブを押し続けると0に戻ります。

運転するとき

■メーターの初期作動（スリープ機能）の設定のしかた

指針の初期作動は次の操作により作動あり/作動なしの設定ができます。

- ① エンジンスイッチをON以外の位置にしてください。
- ② トリップ切り替え／トリップリセットノブを押し、表示を切り替えます。
トリップ表示の次に現在の設定が表示されます。
- ③ このときトリップ切り替え／トリップリセットノブを2秒以上押すと切り替わります。



301431

表示灯

■方向指示器表示灯



方向指示器の点滅を示します。

アドバイス


方向指示器の電球が切れたとき、またワット数の異なった電球を使用すると点滅の早さが異常になります。

すみやかに点検し、異常のある電球を交換してください。

☆6-22ページ参照

■ライティングスイッチ表示灯



ライティングスイッチが ● または  位置時に点灯します。

オートライト装備車は、ライティングスイッチがAUTO位置のとき、周囲が暗くなると点灯します。

■ハイビーム/パッシング表示灯



ヘッドランプが上向きするとき点灯します。

また、パッシング時も点灯します。

■フロントフォグランプ表示灯



フロントフォグランプが点灯しているとき表示灯が点灯します。

アドバイス

フロントフォグランプは、光束が拡散するように設計しているため、ヘッドランプの代わりにはなりません。また、使用方法を誤ると、まわりの車や対向車へ迷惑をかけることとなります。郊外や山間部での濃霧などで見通しが悪いときだけ使用してください。

■セキュリティ表示灯



キーレスエントリー（キーレスアクセス機能、電波式リモコンドアロック）で全てのドア（リヤゲート含む）およびトランクを施錠すると盗難警報装置が監視状態に入り、表示灯が点滅します。

注意

盗難警報装置が作動中、キーを使ってドアを開けると車両ホーンが鳴り、非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。

☆2-43ページ参照

●イモビライザー装備車

通常は点滅しています。

次のことを行った場合、表示灯は消灯します。

- アクセスキーを携帯しプッシュエンジンスイッチを押してACCにしたとき（プッシュスタート装備車）
- エンジンスイッチにキーを差し込んだとき（プッシュスタート装備車以外）



アドバイス

登録されていないキーを使用すると表示灯が点灯します。（プッシュスタート装備車以外）

☆2-33ページ参照

■Info-ECO（インフォ・エコ）表示灯

ECO

エンジンスイッチをONにするとInfo-ECO（インフォ・エコ）表示灯が点灯します。通常はこのモードで走行します。[S]モードスイッチを押すと消灯します。

停車時はモードの選択状態を表示し、走行時は燃費の良い状態のとき点灯します。

☆3-57ページ参照



アドバイス

“Info-ECO”表示灯が点灯中は燃費の良い走行状態であることを示しています。急加速が必要で、アクセルペダルを急に踏み込んだときなどは、“Info-ECO”表示灯は消灯します。

“Info-ECO”表示灯が消灯しないようにアクセルペダルの踏み加減を調整しながら走行すると、燃費の良い走りかたができます。

■シフトアップ表示灯（マニュアル車）

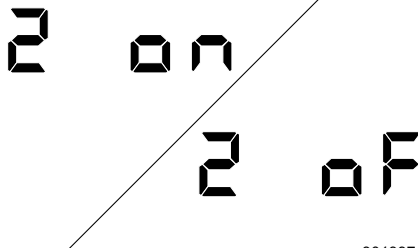
エンジンスイッチをONにすると点灯し、約3秒後に消灯します。
燃費効率の良い運転ができるように、シフトアップのタイミングを点滅してお知らせします。



●シフトアップ表示灯のカスタマイズ（マニュアル車）

シフトアップ表示灯は、次の操作により表示あり／表示なしの設定ができます。

- ① エンジンスイッチをLOCKまたはOFFにしてください。
- ② トリップ切り替え／トリップリセットノブを押し、表示を切り替えます。
- ③ 指針の初期動作（スイープ機能）の設定表示の次に、現在の設定が表示されます。
- ④ このときトリップ切り替え／トリップリセットノブを2秒以上押すと切り替わります。

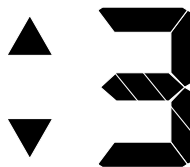


301397

■シフトポジション表示灯（CVT車）

選択しているギヤ位置を表示します。
マニュアルモード選択時、シフトアップ、シフトダウンへの変速が可能状態であることを示す◆印が点灯します。

☆3-55ページ参照

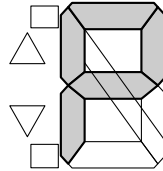


302188

■セレクトインジケータ（CVT車）

セレクトレバーの位置を示します。

☆3-45ページ参照



301042

■VDC OFF表示灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。

VDC OFFスイッチを押してVDCを作動停止状態にしたときに点灯します。

☆3-80ページ参照



■クルーズコントロール表示灯

エンジンスイッチONで点灯、約3秒後消灯します。

クルーズコントロールのメインスイッチを押すと表示されます。

表示灯が点灯すると、クルーズコントロールシステムの速度をセットできます。

☆3-67ページ参照

CRUISE

運転するとき



注意

もし走行中にこの表示灯の点滅とエンジン警告灯の点灯が同時に発生したときは、直ちに車を安全な場所に停めてスバル販売店に連絡し、点検を受けてください。

■クルーズコントロール車速セット表示灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、約3秒後に消灯します。

クルーズコントロール表示灯が点灯している状態で、任意の速度をセットしたときに表示されます。

☆3-68ページ参照

SET

■[S]モード表示灯

[S]

[S]モードスイッチを押すと点灯します。

☆3-57ページ参照

注意

エンジンスイッチがONでも点灯しない場合、および表示灯が点滅し[S]モードスイッチを操作しても切り替わらない場合は、システムの異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

■アイドリングストップ表示灯



アイドリングストップ可能なとき、またはアイドリングストップ中に点灯します。

エンジンを再始動すると消灯します。

☆3-58ページ参照

警告灯

■ブレーキ警告灯



エンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。

エンジン回転中、次の場合に点灯します。

- 駐車ブレーキが完全に解除されていないとき
- ブレーキ液が著しく不足しているとき
- エレクトロニック ブレーキフォース ディストリビューション (EBD) の電子制御システムに異常があるとき

EBDの電子制御システムに異常があるときはABS警告灯も同時に点灯します。

☆3-74ページ参照

注意

- エンジン回転中に駐車ブレーキを解除しても消灯しないとき、またはブレーキ液を補充しても消灯しないときは、直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店に連絡し、点検を受けてください。
- ブレーキ液が正常で、ABS 警告灯も同時に点灯している場合は、アンチロックブレーキシステム (ABS) に異常が発生している可能性があります。そのため、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあります。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

■シートベルト警告灯



エンジンスイッチがONで運転席シートベルトが未着用の場合、メーター内の警告灯が点灯します。また、インフォメーションメーター装備車は助手席（乗車時のみ）、マルチファンクションディスプレイ装備車は助手席（乗車時のみ）および後席のシートベルトが未着用の場合、警告が表示されます。シートベルトを着用すると、警告灯および警告表示は消灯します。

シートベルトを未着用のまま走行するとブザーが鳴ります。

インフォメーションメーターまたはマルチファンクションディスプレイの警告表示はエンジンスイッチをONにすると表示され、次の場合約 30 秒後に消灯します。

- 助手席または後席に乗車していない

☆2-79ページ参照

アドバイス

- このとき車速が約20 km/h以下になっても、警告灯・警告表示の点灯とブザー吹鳴は運転席または助手席（乗車時のみ）シートベルトを着用するまで約2分間続きます。
- 助手席に乗員がない場合でも、座面に荷物などを置いたとき、センサーが感知して警告を表示することがあります。

■半ドア警告灯



エンジンスイッチの位置に関係なくドアが完全に閉じていないときに点灯します。リヤゲートまたはトランクが完全に閉じていないときも点灯します。

注意

警告灯が点灯したままの状態で行きしないでください。

■ABS警告灯



エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約2秒後に消灯します。アンチロックブレーキシステム（ABS）の電子制御システムに異常があると点灯します。

☆3-72ページ参照

注意

警告灯が点灯するとABSは作動せず通常のブレーキとして作動します。走行上支障ありませんが、滑りやすい路面では気をつけて運転し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

アドバイス

警告灯が下記の場合は正常です。

- エンジン始動後に警告灯が点灯してすぐに消灯し、その後再び点灯しない。
- エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが、車速 40 km/h になったとき消灯する。
- 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない。

■AWD警告灯 (AWD CVT車)

AWD

エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約2秒後に消灯します。異なる径のタイヤをいずれかの車輪に取り付けて走行したとき点滅します（スペアタイヤを除く）。4本のタイヤのいずれかの空気圧が著しく低下したまま走行しているときに点滅する場合があります。

☆3-65ページ参照

警告

- AWD 警告灯が点滅したまま走行を続けると、車両の駆動系の損傷や最悪の場合、火災につながるおそれがあり危険です。AWD 警告灯が点滅したときは、すみやかに安全な場所に駐車し、4本のタイヤ径が同じかどうか、また、タイヤのパンクもしくは空気圧の低下がないかどうか確認してください。
- タイヤに異常がない場合には、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

■ヒルスタートアシスト警告灯/ヒルスタートアシスト OFF 表示灯 (マニュアル車)



●ヒルスタートアシスト警告灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約2秒後に消灯します。エンジン回転中、ヒルスタートアシストの制御システムに異常があると点灯します。

☆3-42ページ参照

警告

警告灯が点灯したときは、ヒルスタートアシストは作動しません。すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

●ヒルスタートアシストOFF表示灯

ヒルスタートアシストの機能を解除したとき点灯します。

☆3-43ページ参照

■SRSエアバッグ警告灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、約6秒後に消灯します。
運転席・助手席エアバッグ、サイドエアバッグ（装備車）、カーテンエアバッグ（装備車）、エアバッグセンサー、シートベルトプリテンショナーのいずれかに異常があると点灯します。



警告

- 警告灯が次のようになったときはシステム異常が考えられますので走行しないでください。衝突したときなどにSRSエアバッグが正常に作動せずけがをするおそれがあります。
直ちにスバル販売店で点検を受けてください。
 - － エンジンスイッチをONにしても点灯しないとき
 - － 走行中に点灯したとき
- 警告灯がシステム異常を示している場合、軽微な衝撃でSRSエアバッグが作動したり、大事故でも作動しない場合があります。

■オイルプレッシャー警告灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。
エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているエンジンオイルの圧力に異常があると点灯します。



注意

走行中に点灯したときは、直ちに安全な場所に停車し、エンジンを止めてエンジンオイル量を点検してください。エンジンオイル量が正常にもかかわらず点灯しているときや、エンジンオイルを補給しても点灯するときは、直ちにスバル販売店にご連絡ください。

アドバイス

オイルプレッシャー警告灯はオイル量を示すものではありません。
オイル量の点検はオイルレベルゲージで行ってください。

■AT油温警告灯 (CVT車)

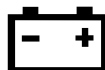
AT OIL
TEMP

エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約2秒後に消灯します。
CVTフルードの温度が高くなると点灯します。

注意

- 走行中に点灯したときは、冷却のため直ちに安全な場所に停車し、セレクタレバーを[P]にしてエンジンをかけたままにしてください。しばらくして消灯すれば走行できます。消灯しないときは、直ちにスバル販売店にご連絡ください。
- AT油温警告灯が点滅したときは、CVTに異常があります。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

■チャージ警告灯



エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。
エンジン回転中、充電系統に異常があると点灯します。

注意

エンジン回転中に点灯したときは、発電機の駆動ベルト切れなどが考えられます。直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店にご連絡ください。

■エンジン警告灯



エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。
エンジン回転中、エンジン電子制御システムの異常があると点灯します。
エンジン回転中、触媒を損傷する可能性があるると点滅します。

注意

- エンジン回転中に点灯したときは、エンジン電子制御システムに異常があります。
高速走行を避け、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。
 - エンジン回転中に点滅したときは、触媒を損傷する可能性があります。
触媒の損傷を防ぐため、次のことを行ってください。
 - － 速度を落として走行してください。
 - － 急発進、急加速を避けてください。
 - － 急な上り坂を避けてください。
 - － 可能であれば荷物を減らしてください。
- 上記の処置をしてもエンジン警告灯が点滅したままの場合、または点灯に変わった場合は、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

■燃料残量警告灯

エンジンスイッチがONのとき、燃料残量が約9L以下になると点灯します。



⚠ 注意

点滅したときはフューエルメーター（燃料計）に異常があります。このとき正しい燃料残量は表示されません。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

🏠 アドバイス

- 点灯したときは、すみやかに燃料を補給してください。
- 坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、警告灯が早めに点灯することがあります。

■VDC警告灯/VDC作動表示灯

VDC警告灯はエンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約2秒後に消灯します。

VDCの電子制御システムに異常があると点灯します。

TCS機能作動時、またはVDC作動時に点滅します。

☆3-76ページ参照



運転するとき

⚠ 注意

- VDCの作動にABSの構成部品を使っているため、ABSの電子制御システムに異常があるときはABS警告灯の点灯と同時にVDC警告灯も点灯します。VDC警告灯とABS警告灯が同時に点灯したときは、VDCはもちろんABSも作動しません。通常のブレーキとしては作動しますので、走行上支障はありませんが、滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
- VDC警告灯のみが点灯したときは、VDC機能やTCS機能は作動しませんがABSは作動します。VDCのついていない車両と同じように扱ってください。滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
- エンジンを始動してから数分たっても消灯しない場合は異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

アドバイス

- 警告灯が下記の場合は正常です。
 - － エンジン始動後、警告灯が点灯したがすぐに消灯し、その後再び点灯しない。
 - － エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが、その後走行中に消灯する。
 - － 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない。
- 寒い日の朝などにエンジンを始動させた場合、消灯までに時間がかかる場合がありますが、これは異常ではありません。

■ オートヘッドランプレベラー警告灯



エンジンスイッチをONにすると点灯し、約3秒後に消灯します。
エンジン回転中、オートヘッドランプレベラー（自動光軸調整機構）の電子制御システムに異常があると点灯します。

注意

オートヘッドランプレベラー警告灯が点灯したときは、照射方向の自動調整が行われない場合があります。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

■ 水温警告灯／水温表示灯



エンジンスイッチをONにすると、約2秒間赤く点灯し、その後消灯あるいは青く点灯します。エンジン冷却水温の低温を示す表示灯（青点灯）と高温を示す警告灯（赤点滅と赤点灯）があります。

● 水温表示灯（青色）

水温が低いときに点灯します。水温が上がると消灯します。

● 水温警告灯（赤色）

水温がオーバーヒート手前の温度になると点滅し、オーバーヒートになると点灯します。点滅または点灯したときは、オーバーヒートの処置を行い、スバル販売店で点検を受けてください。

☆7-35ページ参照

注意

- エンジンスイッチをONにした後、約2秒以上たっても赤く点灯し続けた場合、または赤／青に交互に点灯した場合は、電気系統の異常が考えられます。直ちにスバル販売店で点検を受けてください。
- 暖機後も水温表示灯（青色）が点灯し続ける場合は、冷却系統などに異常が考えられます。すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

アドバイス

走行状態により、再始動時しばらくの間赤く点灯する場合がありますが、消灯すれば異常ではありません。

■ステアリング制御警告灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約2秒後に消灯します。エンジン回転中、パワーステアリングの電子制御システムに異常があると点灯します。

注意

ステアリング制御警告灯が点灯しているときは、ハンドル操作が重くなる場合があります。気をつけて運転し、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

■キー無し警告灯(キーレスアクセス&プッシュスタート装備車)

エンジンスイッチをONにすると点灯し、約2秒後に消灯します。車内にアクセスキーがない場合に点滅します。

☆2-21ページ参照

■アイドリングストップ警告灯

電源をONにすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。アイドリングストップOFFスイッチを押してシステムを解除すると、点灯します。アイドリングストップシステムに異常があるとき点滅します。

☆3-62ページ参照

アイドリングストップ中に次の操作を行うとアイドリングストップ警告灯が点灯します。この場合、安全を確保するためブレーキペダルから足を離しても自動でエンジンが再始動しません。通常の操作でエンジンを始動してください。

- ボンネットを開けたとき
- 運転者が車両から降りようとしたとき（運転席シートベルトを外したり運転席ドアを開けたとき）

注意

- ボンネットを開けたときや運転者が車両から降りようとしたとき（運転席シートベルトを外したり運転席ドアを開けたとき）以外でアイドリングストップ警告灯が点灯しているときに、アイドリングストップOFFスイッチを押し続けても消灯しない場合は、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
- システムに異常があるときは点滅し続けます。すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

運転装置の使いかた

エンジンの始動と停止のしかた

☆キーレスアクセス&プッシュスタート装備車は2-14ページをご覧ください。

■エンジンの始動

●マニュアル車

- ① 駐車ブレーキが確実にかかっていることを確認します。
- ② チェンジレバーがニュートラル位置であることを確認します。
- ③ 運転席に座り、ブレーキペダルを踏みます。
- ④ クラッチペダルをいっばいに踏みます。
- ⑤ エンジンスイッチにキーを差し込みSTARTまでスイッチを回します。このとき、アクセルペダルを踏まずに、エンジンが始動するまでスターターを回します。(10秒以内)

●CVT車

- ① 駐車ブレーキが確実にかかっていることを確認します。
- ② セレクトレバーが[P]であることを確認します。(Nでも始動できますが、安全のため[P]で始動してください。)
- ③ 運転席に座り、ブレーキペダルを踏みます。
- ④ エンジンスイッチにキーを差し込みSTARTまでスイッチを回します。このとき、アクセルペダルを踏まずに、エンジンが始動するまでスターターを回します。(10秒以内)

警告

- 車外からのエンジン始動は絶対に行わないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行中エンジンを止めると触媒が過熱して焼損することがあります。
- 車庫や屋内などの換気の悪いところではエンジンをかけたままにしないでください。車内や屋内などに排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒の原因になるおそれがあります。

注意

- エンジンを始動するときは必ず運転席に座って行ってください。
- 10秒以上スターターを回し続けしないでください。スターターが故障の原因になります。かからないときは、一旦スイッチをOFFに戻し、10秒間放置してからもう一度エンジンスイッチを回し、スターターを回してください。



アドバイス

- マニュアル車には誤操作防止のため、クラッチ・スタートシステムが装備されています。クラッチペダルをいっばいに踏み込まないとスターターが回らず、エンジンがかからないようになっています。
- エンジンの始動直後は、急激な空吹かしや、急加速などをしないでください。
- エンジンがかかった後水温表示灯（青色）が点灯している間、アイドル回転が高めに保たれます。暖機が終わると自動的に下がります。
- エンジンがかかりづらいときは、駐車ブレーキを再確認後、アクセルペダルをわずかに（1/4程度）踏み込んで、エンジンスイッチをSTARTに回します。エンジンがかからない場合はアクセルペダルをいっばいに踏み込んでエンジンスイッチをSTARTに回してください。エンジンがかかったらすみやかにアクセルペダルから足を離してください。
それでもかからないときは、もう一度アクセルペダルを踏まずにエンジンスイッチをSTARTに回してください。エンジンがかからなければスバル販売店に連絡し、点検を受けてください。
- 使用するガソリンや使用状態（水温表示灯（青色）が消灯しない程の距離の走行を繰り返す）によっては、エンジンがかかりにくくなることがまれに発生します。その場合、他ブランドのガソリンに切り替えることをお奨めします。
- 始動の際、電装品をOFFにした方が、容易に始動します。
- 極低温時に、リモコンエンジンスターターを使用すると、始動できない場合もあります。また、純正以外のリモコンエンジンスターターを使用すると、エンジンがかかりにくい場合や、スパークプラグのくすぶりを引き起こすことがあります。
- 急発進、急加速時など、急なアクセル操作時、まれにエンジンから過渡的なノッキングが聞こえることがありますが、異常ではありません。

■エンジンの停止

エンジン回転数がアイドル回転状態まで下がってから、エンジンスイッチを切ります。



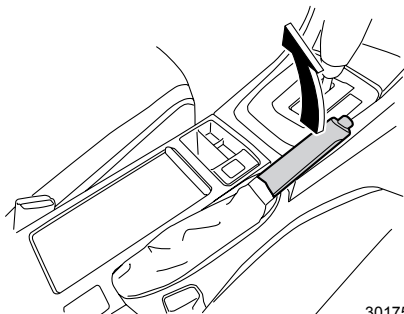
アドバイス

車両が停止した直後は、エンジン回転数がアイドル回転状態に戻るまで時間が多少かかることがあります。

駐車ブレーキ

■かけるとき

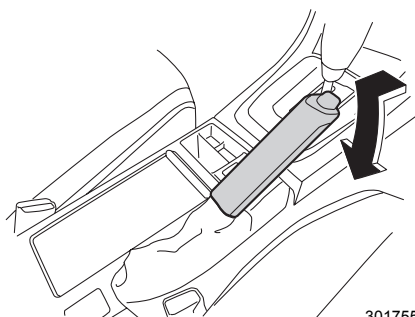
ボタンを押さずにレバーをいっぱいに引きます。同時にメーター内の「ブレーキ警告灯」も点灯します。



301754

■解除するとき

レバーを軽く引き上げ、ボタンを押しながら完全に下まで戻します。戻したとき「ブレーキ警告灯」が消灯していることを確認してください。



301755

⚠ 注意

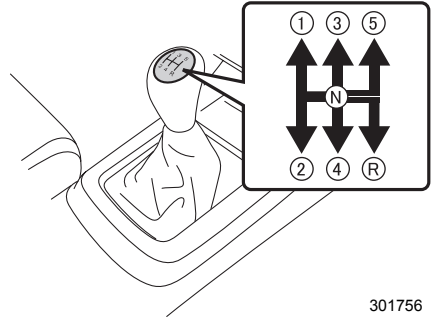
- 駐車するときは車が動き出さないように確実に引いてください。
- 走行するときはレバーを完全に戻し、ブレーキ警告灯が消灯していることを確かめてください。レバーを引いたまま走行すると、ブレーキ部品が早く摩耗したり、後輪ブレーキが過熱して効かなくなることがあります。

マニュアル車の運転

チェンジレバー

■チェンジレバーの操作

変速するときは、クラッチペダルをいっばいに踏み込んで確実に操作してください。
“R” にするとブザーが鳴ります。



301756

警告

クラッチペダルを一気に離す操作はしないでください。車両が飛び出して、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

注意

- 誤操作を防ぐため“5” → “R” へ直接入れることはできません。一度“N”に入れてから“R”に入れてください。
- チェンジレバーを“R”に入れるときは、車が完全に止まり、エンジン回転数がアイドリング状態まで下がってから、入れてください。エンジン回転数が高いままだとトランスミッションを損傷させることがあります。
- 半クラッチの連続使用はしないでください。クラッチ早期摩耗の原因になります。

アドバイス

- 変速時、ギヤが入りにくい場合は、一度クラッチを踏み直すと入りやすくなります。
- “R”に入れるとブザーが鳴り、“R”であることを運転者に知らせます。車外の人に音は聞こえませんのでご注意ください。
- 後退した後は、すぐに“R”から“N”に戻す習慣をつけてください。

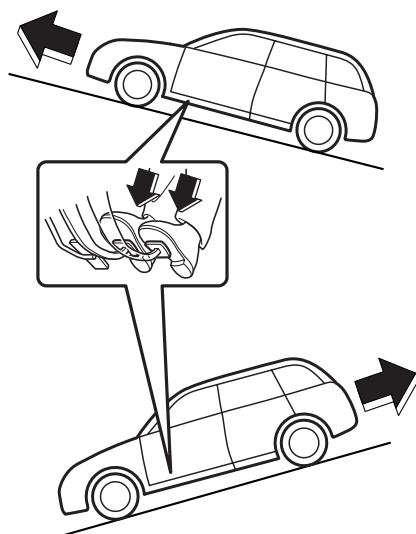
■シフトアップ表示灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、約3秒後に消灯します。
燃費効率の良い運転ができるように、シフトアップのタイミングを点滅してお知らせします。



ヒルスタートアシスト

ヒルスタートアシストは上り坂での前進時（“N”、“R”以外）、下り坂での後退時（“R”）にブレーキペダルからアクセルペダルに踏みかえる際に発生する車両の後退を一時的に防ぐことで、発進を容易にする装置です。



302187

■ヒルスタートアシストの作動

チェンジレバーを発進段（“N”以外）に入れて、ブレーキペダルを離すと1～2秒間ブレーキをかけた状態にします。クラッチをつなぐとブレーキが解除され発進します。

次の場合、ヒルスタートアシストは作動しません。

- チェンジレバーが“N”のとき
- 駐車ブレーキをかけたとき
- エンジンスイッチをACCまたはLOCK（OFF）にしたとき
- ヒルスタートアシスト警告灯が点灯したとき（ヒルスタートアシスト機能OFFも含む）
- 上り坂で後退するとき（“R”）
- 下り坂で前進するとき（“N”、“R”以外）

警告

- ヒルスタートアシストを過信しないでください。極端に急な上り坂、凍結した上り坂、泥状の上り坂では発進が困難な場合があります。慎重に発進してください。
- 坂道で車を駐停車するためにヒルスタートアシストを使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ヒルスタートアシスト作動中に、電源をOFFにしないでください。ヒルスタートアシストが解除され、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- ヒルスタートアシストは下り坂で前進するときは機能しません。また、緩やかな上り坂でも機能しない場合があります。
- チェンジレバーを“R”に入れて後退した後に前進する場合、わずかに衝撃を感じる場合があります。
- ヒルスタートアシストのブレーキ力が不十分なときは、再度ブレーキペダルを踏んでください。

運転するとき

■ヒルスタートアシストを解除するとき

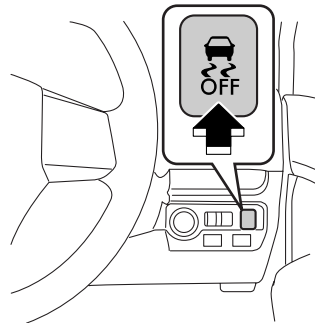
ヒルスタートアシストを解除する場合、次の手順を行ってください。

ヒルスタートアシストを解除するとヒルスタートアシストOFF表示灯が常に点灯します。

- ① 地面が平坦で硬く、車が安定する場所に駐車します。
- ② 駐車ブレーキが確実にかかっていることを確認します。
- ③ エンジンスイッチをLOCK (OFF) にします。
- ④ エンジンを始動します。

ABS警告灯およびVDC警告灯が消灯していることを確認します。

- ⑤ VDC モード切り替えスイッチを押し続けます。
VDC 警告灯 / VDC 作動表示灯が緑色から黄色に変わり、数秒後に消灯します。



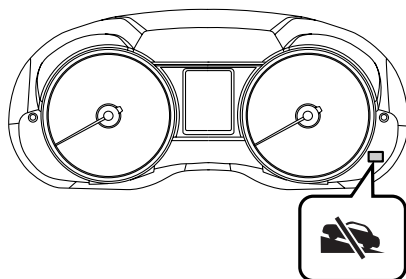
301772

- ⑥ 消灯後、5秒以内にスイッチを離します。

次ページへ ⇒

⇒前ページより

- ⑦スイッチを離れたあと、2秒以内に再度スイッチを押します。
ヒルスタートアシストOFF表示灯が点灯します。



302189

- ⑧エンジンスイッチをLOCK (OFF) にします。
ヒルスタートアシストが解除されます。

復帰させるときは、上記①から⑧の手順を行ってください。
復帰後、ヒルスタートアシストOFF表示灯が消灯します。

⚠ 注意

ヒルスタートアシストを解除したときの坂道発進は、フットブレーキと駐車ブレーキを併用してください。

🏠 アドバイス

途中で操作を間違えたり、ヒルスタートアシストOFF表示灯が点灯しない場合は一度エンジンスイッチをLOCK (OFF) にし、再度やり直してください。

■ヒルスタートアシスト警告灯/ヒルスタートアシスト OFF 表示灯



●ヒルスタートアシスト警告灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約2秒後に消灯します。
エンジン回転中、ヒルスタートアシストの制御システムに異常があると点灯します。

☆3-42ページ参照

⚠ 警告

警告灯が点灯したときは、ヒルスタートアシストは作動しません。すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

●ヒルスタートアシストOFF表示灯

ヒルスタートアシストの機能を解除したとき点灯します。

☆3-43ページ参照

CVT車の運転

セレクトレバー

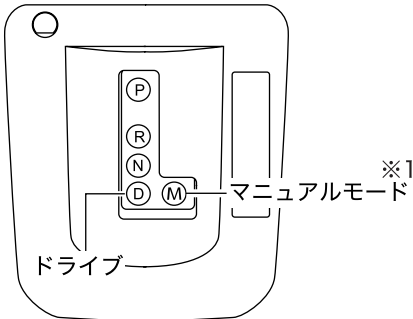
■各位置での働き

 (パーキング)	駐車およびエンジン始動位置	駐車するときは必ず駐車ブレーキをかけて[P]にしてください。
 (リバース)	後退位置	ブザーが鳴り、ドライバーに[R]であることを知らせます。
 (ニュートラル)	中立位置	
 (ドライブ)	通常走行位置	車速およびアクセルペダルの踏み込みに応じて自動的に変速します。
 (マニュアル) ※	マニュアルモード走行位置	手動で変速するときに使用します。 ☆3-54ページ参照
 (Lレンジ) ※	降坂路走行位置	下り坂やカーブの手前など、エンジンブレーキが必要なときに使用します。 ☆3-57ページ参照

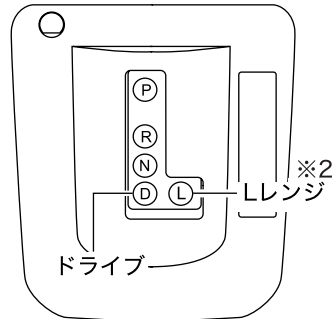
※ 車両により、マニュアルモードまたはLレンジが装備されています。

●各位置とモード

マニュアルモード装備車



Lレンジ装備車



301759

※1 マニュアルモード：3-54ページ参照

※2 Lレンジ：3-57ページ参照

警告

発進時は、アクセルペダルを踏んだままセレクトレバーの操作を絶対にしないでください。急発進し、重大な事故につながるおそれがあります。

注意

- **P** でエンジンをかけてください。
- **N** でもエンジンはかかりますが、安全のため **P** でかけてください。
- **P**、**R** に入れるときは、車が完全に止まってからセレクトレバーを操作してください。トランスミッションを損傷させるおそれがあります。
- **P** 以外の状態で長時間放置すると、バッテリー上がりの原因になります。
- 切り返しするとき、**D** → **R**、**R** → **D** と何度もレバーを操作するときは、その都度ブレーキペダルをしっかりと踏み、車を完全に止めてから行ってください。
- CVTフルードの油温が通常時より高い場合、AT油温警告灯が点灯します。
☆3-34ページ参照

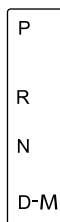
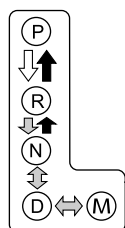

アドバイス

- **R**に入れるとブザーが鳴り、**R**であることを運転者に知らせます。車外の人に音は聞こえませんがご注意ください。
- 後退した後は、すぐに**R**から**N**に戻す習慣をつけてください。
- 低水温時の暖機促進や走行性を良くするため、変速タイミングを通常より高回転側にしています。(暖機が進むと、自動的に通常の変速タイミングに戻ります。)
- 急な登り坂の連続運転など、継続的に負荷のかかる走行を行った場合、車両の冷却性能を維持するためエンジン回転数または車速が自動的に低下することがあります。
負荷が低下し、冷却性能を維持できる状態に戻るとエンジン回転数または車速は元に戻ります。
- 通常**D**で走行中はよりスムーズな走りを実現するため、下記の制御を行っています。
 - － Nコントロール (アイドリングストップが装備されていない1.6iに装備されています)
車が完全に停止した後、セレクタレバーが**D**のままアイドリング状態でブレーキペダルを踏んでいると、ギヤがニュートラル状態になります。「Nコントロール」機能が装備されているため、一時停止などからの再発進時、ブレーキペダルから足を離してギヤがつながるまで若干時間(約1秒)がかかります。
 - － 登降坂制御
走行中の路面勾配による駆動力とエンジンブレーキ力を最適に制御し、登坂、降坂での運転をアシストします。

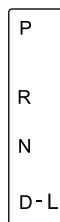
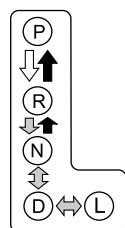
■セレクトレバーの操作方法

レバーは各位置でしっかりと止まるところまで確実に動かしてください。

マニュアルモード装備車



Lレンジ装備車



301760

	ブレーキペダルを踏まないで操作できません。 ブレーキペダルを踏んだまま、ボタンを押して操作します。
	ボタンを押して操作します。
	ボタンを押さずに操作します。



注意

セレクトレバー周辺に物を置かないでください。誤操作の原因となります。



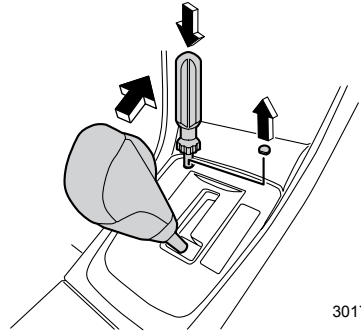
アドバイス

- セレクトレバーの操作は誤操作防止のため各位置ごとに節度をつけ、確実に行ってください。
- **P**のときは、レバーを先に動かしてからブレーキペダルを踏んだ場合、レバーの操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでください。
- エンジンスイッチがLOCK (OFF) またはACCのときは、ブレーキペダルを踏んでもレバーを**P**から他の位置に切り替えられません。

■シフトロックシステム

セレクトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

- [P]からのレバー操作は、エンジンスイッチをONにしブレーキペダルを踏まないといけません。
- セレクトレバーを[P]から他の位置に操作するとき、セレクトレバーを先に動かしてからブレーキペダルを踏むと、レバー操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏み、レバー操作をしてください。
- [P]以外ではエンジンスイッチからキーが抜けず、または電源をOFFにできません。(P以外ではキーをACCからLOCKまたはOFFにできません)
- [N]でエンジンをOFFにした場合、しばらくするとレバーを[P]に操作することができなくなる場合がありますので直ちにブレーキペダルを踏みながら[P]にしてください。もし、セレクトレバーを[N]から[P]に操作できないときは、一旦エンジンスイッチをONにし、ブレーキペダルを踏みながら[P]に操作してください。またはシフトロック解除ボタンを押しながら(図参照)、レバーを[P]に操作してください。



運転するとき

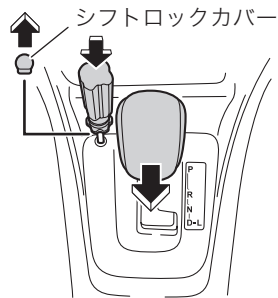
- エンジンスイッチがONで操作できないときは、エンジンスイッチをONからACC※にし、ブレーキペダルを踏みながら[P]へ操作してください。(60秒以内)
エンジンスイッチがONで操作できないときは、シフトロックシステムなどの異常が考えられます。直ちにスバル販売店にご連絡ください。
※キーレスアクセス&プッシュスタート装備車は、[P]以外でエンジン回転中にエンジンスイッチを押してエンジンを停止させた電源状態がACCになります。

●シフトロックの解除

バッテリー上がりやヒューズ切れなどで、セレクトレバーを[P]から動かすことができないときは、シフトロック解除ボタンを押してシフトロックの解除をします。

▼解除のしかた

- ① 駐車ブレーキが確実にかかっていることを確認します。
- ② シフトロックカバーを取り外します。
シフトロックカバーを取り外す場合にマイナスドライバーを使用するときは、傷がつかないようにマイナスドライバーの先端をビニールテープや布で覆ってから作業してください。



101555

- ③ ブレーキペダルを踏みます。
- ④ シフトロック解除ボタンをドライバーで押しながらセレクトレバーを操作します。
- ⑤ 取り外した部品をなくさないようにして、元どおりに取り付けてください。

セレクトレバーが動かないときは、シフトロックシステムの故障が考えられます。直ちにスバル販売店に連絡してください。

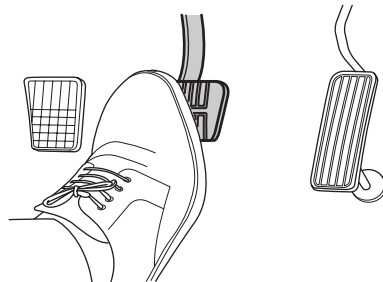
運転手順

■エンジンをかける前に

- ① 正しい運転姿勢をとります。ペダルを確実に踏むことができ、ハンドル操作が楽にできるように、ハンドルの位置、シートの位置を調整してください。
- ☆2-62、2-119ページ参照
- ② アクセルペダルの位置を右足で確認します。
 - ③ ブレーキペダルの位置を右足で確認します。

⚠ 注意

踏み間違いを防ぐため、アクセルペダルとブレーキペダルを右足で踏み、その位置を確認して足に覚えさせてください。
(踏み間違いは事故につながるおそれがあります。)



301531

■エンジン始動

- ① 駐車ブレーキが確実にかかっていることを確認します。
- ② セレクトレバーが[P]であることを確認します。

注意

エンジンは[N]でも始動できますが、安全のため[P]で行ってください。

- ③ ブレーキペダルを右足で踏みます（アクセルペダルは踏まないこと）。
- ④ ブレーキペダルを踏んだままエンジンスイッチをSTARTにし、エンジンを始動します。

アドバイス

エンジンがかかりにくいときにアクセルペダルを踏みながら始動する場合は、始動してすぐブレーキペダルに踏み換えてください。

■発進

- ① ブレーキペダルを右足で踏んだままにします。

警告

セレクトレバーは確実にブレーキペダルを踏んで操作してください。アクセルペダルを踏んだまま操作すると急発進して重大な事故につながるおそれがあります。

- ② セレクトレバーを[D]（前進）または[R]（後退）に入れます。
- ③ セレクトレバーの位置を確認します。
- ④ 駐車ブレーキを解除します。
- ⑤ 右足をブレーキペダルからアクセルペダルに踏み換えゆっくりと加速します。

注意

- エンジン始動直後やエアコン作動時、ハンドル転舵時などはアイドリング回転が高くなり、クリープ（車が動きだす）現象が強くなります。確実にブレーキペダルを踏んでください。

☆1-12ページ参照

- 後退するときには車の後方に人がいないこと、障害物がないことを確認してください。車内にブザーは鳴りますが、車外の人には聞こえません。

アドバイス

- ① 急な坂道での発進は、セレクトレバーの位置を確認し、駐車ブレーキをかけたままブレーキペダルを離し、アクセルペダルを踏みます。
- ② 車が動き出す感覚を確認しながら、駐車ブレーキレバーをゆっくりと解除して発進します。

■ 走行

通常の走行：

Dで走行します。アクセルとブレーキの操作だけで自動的に変速され走行できます。

急加速：

アクセルペダルを深く踏み込みます。自動的にシフトダウンし加速します。

☆1-12ページ参照

上り坂では：

アクセルペダルを深く踏み込みます。自動的にシフトダウンし加速します。

また、マニュアルモード（装備車）に入れ勾配に適したギヤを選択するとなめらかな走行ができます。

下り坂では：

エンジブレーキを併用してください。Lレンジ（装備車）またはマニュアルモード（装備車）でシフトダウンします。

☆3-54ページ参照

急な下り坂では：

マニュアルモード（装備車）で2速または1速に入れると、さらに強いエンジブレーキがかかります。

警告

走行中はセレクトレバーを**N**にしないでください。エンジブレーキがまったく効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

シフトダウンによる急激なエンジブレーキは、道路状況や車間距離に注意して行ってください。

アドバイス

急発進、急加速など、急なアクセル操作時にはまれにエンジンから過渡的なノッキングが聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ 停車

- ① **D**のままブレーキペダルを確実に踏みます。

⚠ 注意

エンジン始動直後やエアコン作動時、ハンドル転舵時などはアイドリング回転が高くなり、クリーブ（車が動きだす）現象が強くなります。確実にブレーキペダルを踏んでください。

🏠 アドバイス

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂で**P** **N**以外に入れた状態で、アクセルをふかしながら車を停止させたりしないでください。トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

- ② 必要に応じて駐車ブレーキをかけます。
 ③ 長時間停車するときは**P**にします。
 ④ 停車後、再発進するときは、セレクトレバーが**D**にあることを確認して発進します。

⚠ 注意

- 空吹かしをしないでください。急発進の原因となります。
- 停車中にセレクトレバーを動かすときはブレーキペダルを確実に踏んでください。
- 急な上り坂での停車は、クリーブ現象で前に進もうとする力よりも、後退しようとする力の方が大きくなり、車が後退することがあります。ブレーキペダルを踏み込み、確実に駐車ブレーキレバーを引いてください。

🏠 アドバイス

アイドリングストップが装備されていない1.6iには、Nコントロール機能が装備されています。

- Info-ECO（インフォ・エコ）モードで走行時、車が完全に停止した後、セレクトレバーが**D**のままアイドリング状態でブレーキペダルを踏んでいると、ギヤがニュートラル状態になります。
- 再発進時はブレーキペダルから足を離してギヤがつながるまで若干時間（約1秒）がかかります。急な上り坂での再発進時は、駐車ブレーキを併用することをお奨めします。

■ 駐車

- ① 車を完全に止めます。

⚠ 注意

車が完全に止まらないうちにセレクトレバーを[P]に入れないでください。トランスミッション損傷の原因となります。

- ② ブレーキペダルを踏んだままの状態ですべての駐車ブレーキレバーを引き、駐車ブレーキが確実にかかっていることを確認します。
- ③ セレクトレバーを[P]に入れます。
- ④ エンジンを止めます。

☆1-24ページ参照

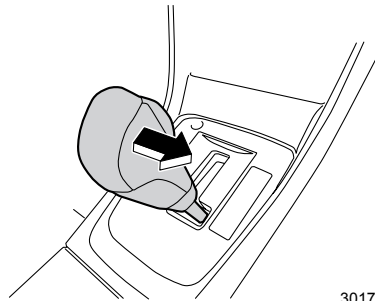
⚠ 注意

車から離れるときは、必ずセレクトレバーを[P]に入れ、エンジンを止めてください。[P]以外でエンジンを止め、車を放置するとバッテリー上がりの原因となります。

マニュアルモード

マニュアルモード装備車

セレクトレバーを[D]から[M]に動かすとマニュアルモードになります。



301763

⚠ 注意

マニュアルモード操作時は次の注意をよくお読みください。

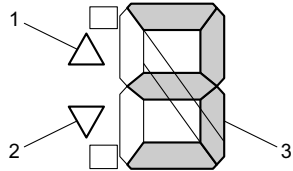
- CVTフルードの油温が通常時より高い場合、AT油温警告灯が点灯します。(3-34ページ参照)
- シフトダウン不可能な車速（シフトダウンすることによりエンジンの回転がレッドゾーン以上になる場合）でシフトダウン操作をした場合、“ピビ”とブザーが鳴り、運転者にシフトダウンできないことを知らせます。
- 低過ぎる車速でシフトアップを行った場合、変速しません。
- 車が停車したとき、自動的にギヤは1速になります。

■ シフトポジション表示灯

マニュアルモードが選択されるとギヤ位置を表示します。

シフトアップが可能な場合は数字の横に“▲”、シフトダウンが可能な場合は数字の横に“▼”が表示されます。

シフトアップ、シフトダウン可能表示灯が点灯している状態ではシフトアップ・ダウンはできません。



- ① シフトアップ可能表示灯
- ② シフトダウン可能表示灯
- ③ 変速ギヤ表示

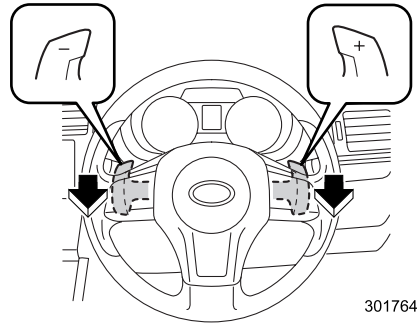
301048

■ パドルシフト

● パドルシフトの操作

右側のレバーが⊕（アップ）になり、左側のレバーが⊖（ダウン）になります。

1段上のギヤに変速するときは⊕のレバーを手前に引きます。1段下のギヤに変速するときは⊖のレバーを手前に引きます。





301764

● マニュアルモードの解除

マニュアルモードを解除するときは、セレクトレバーを **M** から **D** の位置に移動させます。

■Dレンジパドルシフトマニュアル操作機能

走行中、のままパドルシフトで変速すると自動変速モードから一時的にマニュアルモードに切り替わり、しばらく走行した後、通常のの走行に自動的に復帰します。(操作時の走行状況により、モード切り替えや復帰時間が異なります。) このとき、シフトポジション表示灯にギヤ位置が表示されます。

注意


パドルシフトのレバーにアクセサリなど物をかけないでください。アクセサリなどをかけるとレバーが不意に動き、シフト操作をするおそれがあります。

■滑りやすい路面での発進（2速発進）

雪道など滑りやすい路面での発進は、マニュアルモードで2速を選択することにより、安全で容易に行えます。

ブレーキを踏んだまま、パドルシフトのレバーを \oplus 側に動かしギヤを2速にします。このときシフトポジション表示灯は2速を表示します。

アドバイス

2速発進を選択すると、2速で固定されたままになります。変速したい場合は、セレクトレバーをに戻すか、マニュアルモードとしてご使用ください。
☆3-54ページ参照

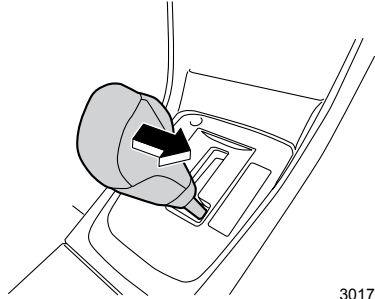
Lレンジ

Lレンジ装備車

セレクトレバーを[D]から[L]に動かすとLレンジになります。

下り坂やカーブの手前など、エンジンブレーキが必要なときに使用します。

レバーを[D]に移動すると、Lレンジは解除されます。



301763

警告

滑りやすい路面ではLレンジにしないでください。Lレンジにしてエンジンブレーキをかけた場合、タイヤがスリップして重大な事故につながるおそれがあります。

運転するとき

[S]モード

[S]モード装備車

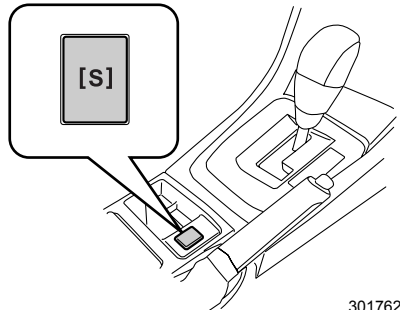
山間部での走行または、高速道路の合流および追い越し加速時に適した走行モードです。

[S]モードにすると、変速位置がエンジンの高回転側に設定されます。

セレクトレバーが[D]のとき、[S]モードスイッチを押すと[S]モードになり、メーター内の[S]モード表示灯が点灯し、同時にInfo-ECO表示灯が消灯します。

☆3-27ページ参照

[S]モードスイッチを再度押すと[S]モード表示灯は消灯し、同時にInfo-ECO表示灯が点灯します。



301762

アイドリングストップ※

アイドリングストップ (オートスタートストップ)※

アイドリングストップとは、エンジン暖機後に運転中の信号待ちや渋滞などで車両が停止しているとき、燃費向上・排ガスの低減・アイドリング騒音低下のため、ブレーキ操作によってエンジンを自動停止させる機能です。また、ブレーキの解除によってエンジンを自動再始動させます。

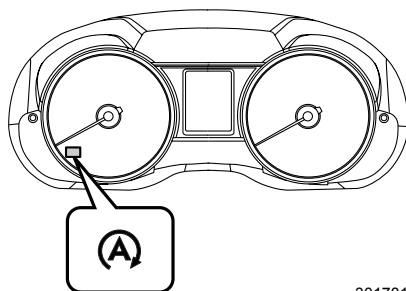
アドバイス

- 少し強めにブレーキペダルを踏むことで意図的にエンジンを停止させることができます。
- 走行条件によっては作動しない場合があります。

■アイドリングストップ機能

●アイドリングストップの作動

走行中にアイドリングストップする条件を満たすと、メーター内のアイドリングストップ表示灯が点灯します。



301781

□のままブレーキペダルを踏んで停車するとアイドリングストップします。アイドリングストップ表示灯はアイドリングストップ中も点灯します。

□のままブレーキペダルから足を離すと自動でエンジンが再始動し、アイドリングストップ表示灯が消灯します。走行中に再度アイドリングストップする条件を満たすと、アイドリングストップ表示灯が点灯します。

 **アドバイス**

アイドリングストップは安全で快適にご使用いただくため、運転者の操作以外に車内外の環境、車両の状態などを常にコントロールし、アイドリングストップ・再始動を制御しています。次の条件を全て満たしているとき、アイドリングストップします。

- エンジンを始動し、一度走行したあと（走行せずにアイドリングを続けても、アイドリングストップは作動しません。また、停車中にアイドリングストップ・再始動を繰り返すこともありません。アイドリングストップは短時間のアイドリング時にエンジンを自動で停止・再始動させる機能です。長時間の駐車時はエンジンスイッチをOFFにしてください。）
- エンジンが十分に暖まっているとき
- 車両が停車しているとき
- バッテリー状態が良好のとき
- ボンネットが閉まっているとき
- 全てのドア（トランクおよびリヤゲート含む）が閉まっているとき
- 運転席シートベルトを着用しているとき
- 車内の温度がエアコンの設定温度に近づいたとき
- デフロスタースイッチがOFFのとき
- リヤウインドウデフォッガースイッチがOFFのとき
- A/Cスイッチ（冷房・除湿機能）がOFFのとき
- 標高約1500m以下で使用しているとき
- 外気温が約-10℃以上のとき
- アイドリングストップ警告灯が点灯または点滅していないとき
- エンジン警告灯が点灯していないとき
- セレクトレバーがDのとき
- CVTフルードが十分に暖まっているとき
- CVTフルードの温度が異常に高くないとき
- ハンドルが直進状態のとき
- ハンドル操作をしていないとき
- ブレーキペダルを踏んで停車させたとき（アイドリングストップせずアイドリングストップ表示灯が消灯したときは、ブレーキペダルの踏力が不足している可能性があります。もう少し強く踏んでください。）
- 急制動ではないとき
- 急な坂道で停車していないとき
- ハザードランプがOFFのとき
- ブレーキブースターの負圧が充分なとき

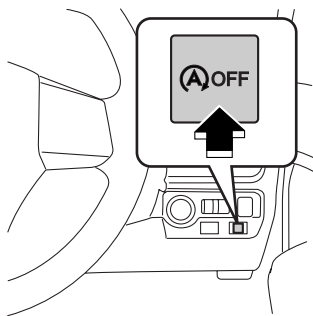
次の場合、アイドリングストップするまで時間がかかる場合があります。

- 車を長期間使用しなかった場合などによる、バッテリーが放電したとき
- 外気温が高いとき、または低いとき
- バッテリー交換などにより、バッテリー端子を外したあと

●アイドリングストップ後の再始動

アイドリングストップ中、次の操作を行うとブレーキペダルから足を離さなくても、エンジンが再始動します。

- アイドリングストップOFFスイッチを押したとき



301783

- デフロスタースイッチをONにしたとき
- リヤウィンドウデフォグスイッチをONにしたとき

☆3-16ページ参照

- A/Cスイッチ（冷房・除湿機能）をONにしたとき

☆4-17、4-10ページ参照

- 坂道でブレーキをゆるめ、車両が動きだしたとき
- ブレーキペダルをすばやく踏み増したとき
- アクセルペダルを踏んだとき
- セレクトレバーを[R]にしたとき
- ハンドル操作をしたとき
- ハザードランプをONにしたとき
- ブレーキブースターの負圧が低下したとき

アイドリングストップ中、次の状態になるとブレーキペダルから足を離さなくてもエンジンが再始動します。

- 車内の温度がエアコンの設定温度から大きく外れたとき
- バッテリーの放電が進んだとき

次のときはエンジン停止時間が短くなることがあります。

- 外気温が高いとき、または低いとき（エアコンが設定温度を維持できなくなるため）
- 電装品などの消費電力が多いとき

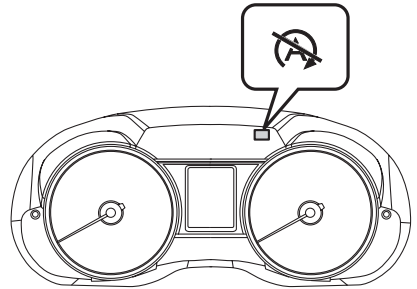


アドバイス

アイドリングストップからエンジンが再始動すると、電源ソケットの電圧が低下するので、使用している電装品によっては電源が一時的にOFFになることがあります。

アイドリングストップ中、次の操作を行うとアイドリングストップ警告灯が点灯します。この場合、安全を確保するためブレーキペダルから足を離しても、自動でエンジンが再始動しません。通常の操作でエンジンを始動してください。

- ボンネットを開けたとき
- 運転者が車両から降りようとしたとき（運転席シートベルトを外したり運転席ドアを開けたとき）



301782

注意

- アイドリングストップ中、ブレーキペダルから足を離しても自動でエンジンが再始動しない場合は、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
- 運転席以外のドアを開けた状態で放置したり、ブレーキペダルから足を離した場合は、ドアを閉めても自動で再始動しません。

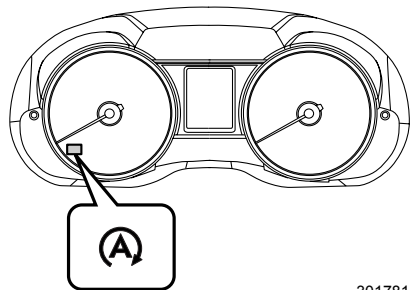
■アイドリングストップ警告灯（橙）/ アイドリングストップ表示灯（緑）

アイドリングストップは、安全で快適にご使用いただくために、運転者の操作状況や、車内外の環境、車両の状態などを常にコントロールし、アイドリングストップ警告灯 / アイドリングストップ表示灯によりさまざまな注意を運転者にお知らせします。

●アイドリングストップ表示灯

▼点灯するとき

アイドリングストップが可能なおとき、またはアイドリングストップ中に点灯します。エンジンが再始動すると消灯します。



301781

運転するとき

●アイドリングストップ警告灯

▼点灯するとき

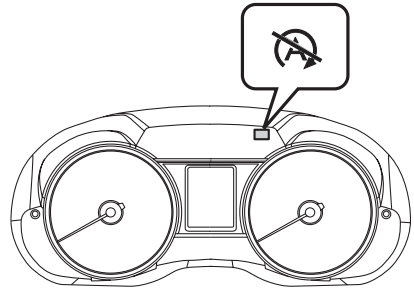
電源をONにすると点灯し、エンジンを始動すると消灯します。

アイドリングストップOFFスイッチを押してシステムを解除すると、点灯します。

アイドリングストップ中に次の操作を行うとアイドリングストップ警告灯が点灯します。

この場合、安全を確保するためブレーキペダルから足を離しても自動でエンジンが再始動しません。通常の操作でエンジンを始動してください。

- ボンネットを開けたとき
- 運転者が車両から降りようとしたとき（運転席シートベルトを外して運転席ドアを開けたとき）



301782

⚠ 注意

ボンネットを開けたときや運転者が車両から降りようとしたとき（運転席シートベルトを外したり運転席ドアを開けたとき）以外でアイドリングストップ警告灯が点灯しているときに、アイドリングストップOFFスイッチを押し続けても消灯しない場合は、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

▼点滅するとき

システムに異常があるときは点滅し続けます。すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

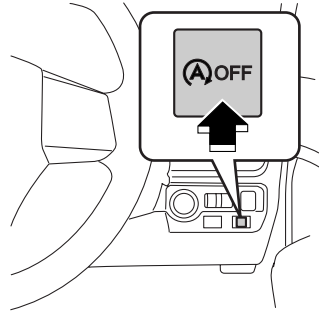
●アイドリングストップ作動時間の表示

アイドリングストップした時間などをインフォメーションメーターまたはマルチファンクションディスプレイに表示することができます。アイドリングストップした時間などは目安です。

☆4-57、4-62、4-63、4-66ページ参照

●アイドリングストップOFFスイッチ

アイドリングストップOFFスイッチを押すとアイドリングストップの作動が解除され、メーター内のアイドリングストップ警告灯が点灯します。もう一度スイッチを押し続けるとアイドリングストップが作動可能な状態になり、アイドリングストップ警告灯が消灯します。



301783

🏠 アドバイス

- アイドリングストップを解除した状態でエンジンスイッチを OFF にした場合、エンジンを再始動するとアイドリングストップは作動可能な状態に戻ります。
- 車から離れるときはエンジンスイッチをOFFにしてください。バッテリー上がりの原因となります。



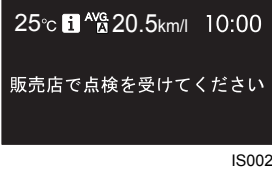

●アイドリングストップ警告ブザー

アイドリングストップ中に運転席以外のドアを開けるとブザーが鳴り、アイドリングストップ中であることをお知らせします。ドアを閉めるとブザーは止まります。

自動でエンジンが再始動しない状態（ボンネット開・運転席シートベルト外し・運転席ドア開）になるとブザーが鳴り、通常の操作でエンジンを始動またはエンジンスイッチをOFFにすると、ブザーは止まります。

■警告画面表示

システムが故障したとき、マルチファンクションディスプレイ（装備車）に表示されます。同時にメーター内の警告灯が点滅します。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

表示画面	表示条件	解説
 <p>25°C  AVG 20.5km/l 10:00 アイドリングストップの 点検が必要です IS001</p>	走行時に表示された場合、アイドリングストップに何らかの異常が発生しています。同時にアイドリングストップ警告灯も点滅または点灯します。	すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
 <p>25°C  AVG 20.5km/l 10:00 販売店で点検を受けてください IS002</p>		

■バッテリー

アイドリングストップ装備車は、高性能な専用バッテリーを使用しています。バッテリーを交換するときは、スバル純正のアイドリングストップ専用バッテリーに交換してください。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

注意

- 専用バッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化やアイドリングストップが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- バッテリーの端子から直接電装品の電源をとらないでください。アイドリングストップが正常に作動しなくなります。

アドバイス

バッテリーは定期的に充電することで、長持ちさせることができます。詳しくはスバル販売店にご相談ください。

AWD車の運転

運転するとき

AWDとは、All Wheel Drive（オール ホイール ドライブ=全輪駆動）の略です。4輪車では4WD（四輪駆動）とも呼びます。

AWD車は、エンジンの動力を4輪全てに伝え、ラフロード（悪路、砂地、泥地）や急坂などで安定した走りを発揮します。

- タイヤがしずみ込むような深い砂地、河川、海水中に乗り入れないでください。
やむを得ず走行したときは、走行後各部を念入りに洗ってください。砂、泥、塩分などがブレーキ内部に入ると異常があるときは、すみやかに点検整備を受けてください。
- オフロード走行やラリー走行はしないでください。
この場合の故障は保証修理の対象にはなりませんのでご注意ください。
- AWD車は滑りやすい路面、積雪路などで2WD（二輪駆動）車より安定した性能を発揮しますが、急ハンドル、急ブレーキでは2WD車とあまり差がありません。
カーブや下り坂、雪道や積雪路など滑りやすい路面では十分にスピードを落とし、安全な速度と車間をとって慎重に走行してください。

警告

- 4輪のうち1輪でも異なるタイヤを装着していると、車両の駆動系の損傷や、最悪の場合、火災につながるおそれがあり危険です（スペアタイヤを除く）。また、操縦性・ブレーキ性能を危険なものにし、事故につながる可能性がありますので、下記事項をお守りください。
 - － 4輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
 - － 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
 - － 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
 - － タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
 - － 応急用スペアタイヤは、指定されたサイズを、指定した位置に装着してください。
 - 雪道走行が予測される場合は、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を使用してください。装着のときは、下記事項をお守りください。
 - － 4輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
 - － 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
 - － 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
 - － タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
- なお、一般タイヤでは、雪道、凍結路でスリップしやすく危険です。また、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）は、乾燥路では一般タイヤに比べ、グリップ性能が低下します。

☆5-2ページ参照

次ページへ ⇒

⇒前ページより

- タイヤチェーンは非常時のみ、指定チェーンを前輪に取り付けてください。タイヤチェーンを取り付けると、前後の駆動力バランスが変わるため後輪が滑りやすくなります。急発進、急ブレーキ、急ハンドルなどを避けて、路面の状況に合った安全な速度(30 km/h以下)で慎重に運転してください。
- 前輪のみの持ち上げけん引および、後輪のみの持ち上げけん引は絶対にしないでください。駆動装置が損傷したり、車がトレッカー（台車）から飛び出すことがあります。

☆7-29ページ参照

ビスカスLSD付センターデフ方式フルタイムAWD

マニュアル車の機構です。

ビスカスカップリング付センターデフ機構を採用しています。前後輪に回転差が生じたとき路面状況に合った駆動力が前後輪に配分され、雪道、ぬかるみ、滑りやすい路面で安定した走行性能を発揮します。

アクティブトルクスプリットAWD

CVT車の機構です。

アクティブトルクスプリットAWDを採用しています。走行条件に合わせて前後輪の駆動力配分を電子制御し、常に安定した走行性能を発揮します。

クルーズコントロール


クルーズコントロール（自動定速走行装置）は、アクセルペダルを踏まなくても約 40 ～ 100 km/hの任意の速度で車速を一定に保つことができる機能です。

警告

次のような道路では危険ですので使用しないでください。

- 交通量が多く、車間距離が充分に取れない道路
- 急な下り坂や急カーブが多い道路
- 凍結、積雪などで滑りやすい道路

注意

もし走行中にクルーズコントロール表示灯“CRUISE”の点滅とエンジン警告灯“”の点灯が同時に発生したときは、直ちに車を安全な場所に停めてスバル販売店に連絡し、点検を受けてください。

アドバイス

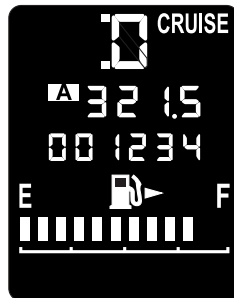
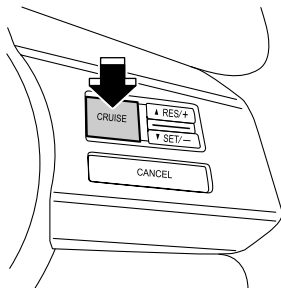
- 上り坂や下り坂では勾配、積載量により、一定速度を保てない場合があります。
- CRUISEスイッチを押してもクルーズコントロール表示灯が点灯しない場合は、システムの異常が考えられます。スバル販売店に連絡し、点検を受けてください。

■ CRUISEスイッチ

▼ 作動するとき

CRUISE（クルーズ）スイッチを押します。

このときメーター内のマルチインフォメーションディスプレイに“CRUISE”が表示されます。



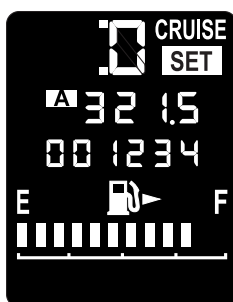
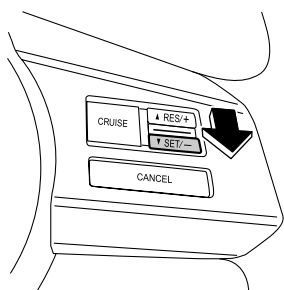
301767

▼停止するとき

スイッチをもう一度押すと作動停止します。エンジンを止めたときも自動的に作動停止し、表示灯は消灯します。

■速度をセットするとき

- ① CRUISE スイッチを押して作動可能にします。
- ② アクセルペダルを加減して希望する速度にします。
- ③ 希望する速度になったときRES/SETスイッチをSET/-側に押します。
スイッチを押し下げたときの速度がセット車速となり、定速走行します。
メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに“SET”が表示されます。

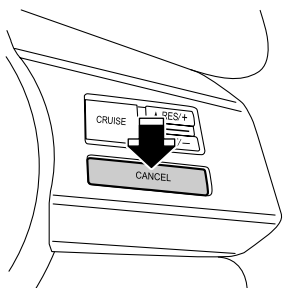


301768

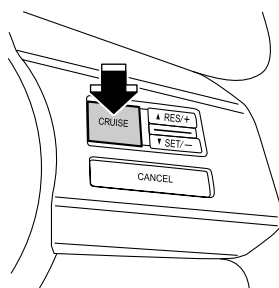
■一時解除

次の場合は速度セットが一時的に解除されます。メーター内のクルーズコントロール車速セット表示灯も消えます。

- CANCEL（キャンセル）スイッチを押したとき。
- CRUISE（クルーズ）スイッチを押したとき。
- ブレーキペダルを踏んだとき。



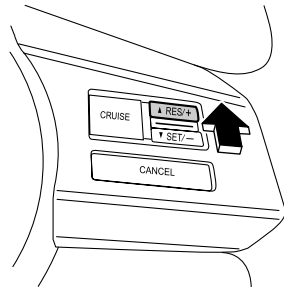
301625



301626

■一時解除の復帰

前回のセット車速がメモリー※されていますので、その速度に再びセットしたいときは、RES/SET スイッチを RES/ + 側に押します。(マルチインフォメーションディスプレイが再び設定状態の表示になります。)
前回のセット車速がメモリーされている場合、現在の速度が約30 km/h以上でセットが可能です。



301627

※次の場合はメモリーされている車速が消えます。

- クルーズメインOFFしたとき
- VDC、TCSが作動したとき

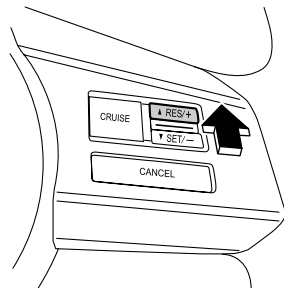
🏠 アドバイス

- メモリー車速値 (前回のセット車速) の表示はありません。(マルチインフォメーションディスプレイ等に表示されません。)
- 40 km/h～100 km/hの範囲で設定された速度で定速走行します。
- メモリー車速がない場合RES/+スイッチでは設定できません。
- RES/+スイッチで設定した場合は、メモリーされている車速に設定されます。

■セット車速を高めるとき (タップアップ/アクセラレート)

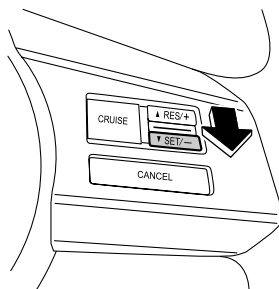
次の3つの方法があります。

- タップアップ
RES/SETスイッチをRES/+側に押すと、セット車速が1km/hきざみで上がります。
- アクセラレート
RES/SETスイッチをRES/+側に長く押し続けると、押し続けている間だけ加速します。このあと、スイッチを離れたときの速度で再セットされます。



301627

- アクセルペダルによる方法
アクセルペダルを踏み、速度を上げます。
希望の速度になったら RES/SET スイッチ
をSET/ー側に押します。スイッチを離れた
ときの速度で再セットされます。



301628

■一時的に加速したいとき

追越しなどで加速したいときはアクセルペダルを踏み込んでください。
アクセルペダルから足を離すと設定した速度まで自動的に戻り、定速走行を続けます。

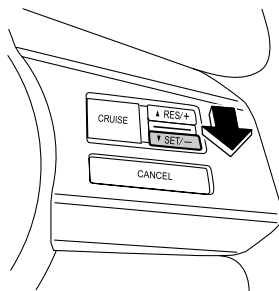
アドバイス

操作スイッチでの急加速はできません。

■セット車速を下げるとき（タップダウン/コースト）

次の3つの方法があります。

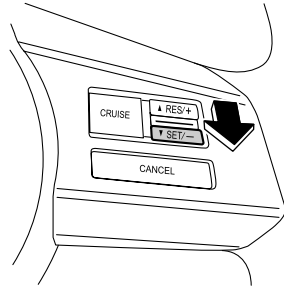
- タップダウン
RES/SETスイッチをSET/ー側に押すと、設定車速が1km/hきざみで下がります。
- コースト
RES/SETスイッチをSET/ー側に長く押すと、押している間だけ減速します。このあと、スイッチを離れたときの速度で再セットされます。



301628

- ブレーキペダルによる方法

ブレーキペダルを踏み、速度を下げます。
(定速クルーズコントロールが解除されます。)
希望の速度になったら RES/SET スイッチ
をSET/ー側に押します。スイッチを離れた
ときの速度で再セットされます。



301628



アドバイス

現在の速度とセット車速に約5km/h以上の速度差があるときは、タップダウンではなくセット車速の再設定になります。

■一時的に減速したいとき

減速するときはブレーキペダルを踏んでください。設定した速度に戻すときは復帰操作をしてください。

☆3-69ページ参照



アドバイス

- 操作スイッチでの急減速はできません。
- 下り坂ではエンジンブレーキと併用してください。

ブレーキ

アンチロックブレーキシステム：ABS

急ブレーキや滑りやすい路面でブレーキをかけたときに、タイヤのロック（車輪の回転が止まること）を防止して、車両の方向安定性を保ち、ハンドル操作性を確保する装置です。危険時はブレーキを確実に強く踏み続け、必要な場合はハンドル操作で危険を回避してください。

ABSの電気系統に異常が生じた場合はABSは作動しませんが、通常のブレーキとしての性能は確保されます。

■制動距離やハンドル操作について

注意

- ABSは必ずしも制動距離を短縮する装置ではありません。
ABSの付いていない車両と同じように安全な車間距離をとって運転してください。
- ABSが作動した状態であっても車両の方向安定性、ハンドル操作性には限界があります。ABSを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあります。常に安全運転を心がけてください。
- 下記の路面などでABSが作動した場合、ABSが付いていない車両よりも制動距離が長くなることがあります。
 - － マンホール、工事現場の鉄板などの滑りやすい路面
 - － 道路のつなぎ目などの段差
 - － 凹凸路、石畳などの悪路
 - － 下り坂での旋回
 - － 路肩に草や砂利が多い道路
 - － 砂利道
 - － 雪路（新雪路、圧雪路、凍結路など）
- タイヤチェーン装着時にはABSの付いていない車両に比べて制動距離が長くなる場合があります。
とくに速度を控えめにして車間距離を充分にとって運転してください。
- 車速が約10 km/h以下になるとABSは作動しません。

アドバイス

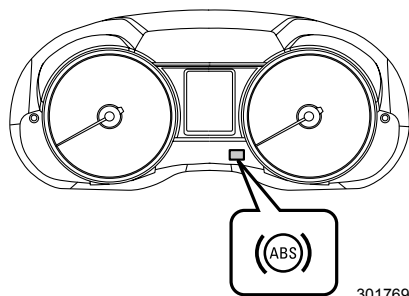
ABSが作動するとハンドル操作時のフィーリング（感覚）が若干変わります。

■振動や音について

- ABSが作動したときは、ブレーキペダルが小刻みに動いたり、車体やハンドルなどに振動を感じることがあります。
これはABSが作動している状態を表しており異常ではありません。そのままブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。
- エンジンをかけた後、最初の発進時に以下の場合がありますが、これはABS作動のチェックをしている動きで異常ではありません。
 - ー エンジンルーム付近から一時的に作動音がする。
 - ー ブレーキペダルを踏むタイミングによってペダルにABSが作動したときと同じような振動を感じる。

■ABS警告灯

エンジンスイッチをONにすると点灯し、エンジン始動後約2秒後に消灯するのが正常です。



301769

⚠ 注意

警告灯が下記の場合、システムの異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

- エンジンスイッチをONにしても点灯しない
- 点灯したままのとき

なお、このような場合でも通常のブレーキとしての性能は確保されています。(ABSとしては作動しません)

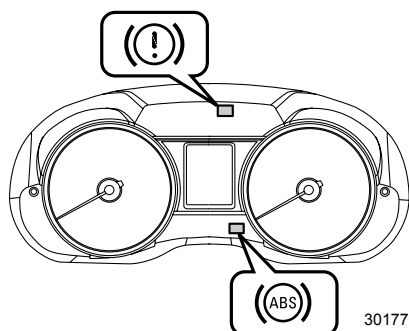
🏠 アドバイス

警告灯が下記の場合は正常です。

- エンジン始動時に警告灯が点灯してもすぐに消灯し、その後再び点灯しない。
- エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが、その後走行中に消灯する。
- 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない。

●エレクトロニック ブレーキフォース ディストリビューション (EBD)

ブレーキをかけたときの前後輪の荷重変化や強いブレーキ時の制動力の変化に応じて、リヤブレーキをコントロールして、後輪の早期ロックを防止する機能です。



⚠ 注意

EBDシステムに異常が発生した場合、ブレーキ警告灯とABS警告灯が点灯します。点灯した場合システムの異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

EBDシステムに異常があるときは後輪がロックしやすくなります。

🏠 アドバイス

- EBD が作動するとブレーキペダルに動きを感じたり、ABS 作動時に似た音が聞こえることがあります。
- ブレーキ警告灯は駐車ブレーキレバーが完全に解除されていないときや、著しくブレーキ液が不足したときも点灯します。

☆3-30ページ参照

ブレーキブースター (制動力倍力装置)

ブレーキブースター (制動力倍力装置) はエンジンの吸入負圧を利用してブレーキペダルを踏む力を軽減する装置です。

🏠 アドバイス

エンジンが停止している状態や長時間の駐車の後などでブレーキブースター内の負圧が不足している場合にブレーキペダルを踏むと (減速、停止するとき) 通常よりも強い力が必要になります。

ブレーキオーバーライド

アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれた場合、ブレーキの制動力を優先させるブレーキオーバーライド機能を備えています。アクセルペダルが全開の状態でも、安全に止まれる可能性があります。また、アクセルペダルが固着して戻りにくい場合でも、ブレーキペダルを踏むことで確実に減速できます。

警告

- ブレーキオーバーライド機能に頼った運転は絶対に行わないでください。あらゆる状況で衝突を回避するものではありません。
- ブレーキオーバーライド機能の性能には限界があります。誤った使用をすると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ブレーキアシスト

ブレーキを強く踏めないドライバーの操作を補助する装置です。ブレーキペダルを強く踏み込んだとき、もしくは早く踏み込んだときに、緊急制動と判断し、より大きな制動力を発生させます。

注意

ブレーキアシストは本来持っているブレーキ性能を超えた制動力を発生させる装置ではありません。

アドバイス

ブレーキペダルを踏み込んだとき、次のような現象が起こりますが、これはブレーキアシスト機構が正常に機能しているときの現象で、異常ではありません。

- ブレーキペダルを強く踏み込んだとき、もしくは早く踏み込んだときに、ブレーキペダルが軽くなりブレーキが強くなるようになります。その場合、ABSが通常より早く効くことがあります。

VDC

VDC (ビークルダイナミクスコントロール)

走行中、滑りやすい路面や障害物の緊急回避などのときには、車両が横滑りや尻振りを起こすことがあります。VDCは、ブレーキ制御、エンジン出力制御により、横滑りなど車の不安定な挙動を押さえるシステムです。

■VDCの主な機能

●トラクションコントロール (TCS) 機能

トラクションコントロール (TCS) 機能は、ブレーキ制御、エンジン出力制御により、滑りやすい路面などで生じる駆動輪の空転を防止して駆動力、操舵能力を確保する機能です。この機能が作動すると、VDC作動表示灯が点滅します。

☆3-78ページ参照

●横滑りコントロール (VDC) 機能

急なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、ブレーキ制御、エンジン出力制御により車輪の横滑りなどを抑制し、車両の方向安定性を確保する装置です。この機能が作動すると、VDC作動表示灯が点滅します。

☆3-78ページ参照

注意

- VDCを過信しないでください。VDCが作動した状態でも車両の安定性の確保には限界があり、無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあります。常に安全運転を心がけてください。
 - VDCが作動するような路面では車速を十分に落として運転してください。
 - サスペンション構成部品、ハンドル構成部品、アクスルの脱着時は、必ずスバル販売店で点検を受けてください。
- 次の事項は必ず守ってください。
- 雪道走行するときは、冬用タイヤ (スタッドレスタイヤ) またはタイヤチェーンを装着して走行してください。
 - タイヤチェーンを装着するときは、5-2ページの記載事項をお守りください。
 - 冬用タイヤ (スタッドレスタイヤ) を装着するときは、下記項目をお守りください。
 - ー 4 輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン (溝模様) のタイヤを装着してください。
 - ー 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
 - ー 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
 - ー タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
 - VDC 装備車であってもカーブなどの手前では、十分に速度を落としてください。

- VDC が正常に機能しなくなることがありますので、下記事項をお守りください。
 - － 4 輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
 - － 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
 - － 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
 - － タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
 - － 応急用スベアタイヤは、指定されたサイズを、指定した位置に装着してください。

☆8-5ページ参照

アドバイス

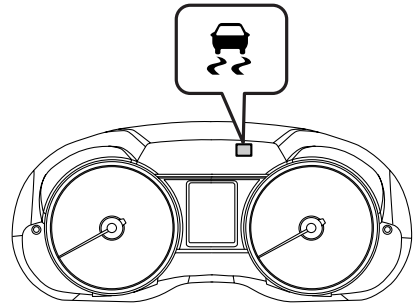
- VDCが作動したとき、ブレーキが小刻みに動いたり、車体やハンドルなどに振動や作動音を感じることがあります。これは、VDCが作動している状態で、正常です。
- エンジンをかけた後の最初の発進時に、エンジンルーム付近から一時的に作動音がします。これは、VDCの作動をチェックしている音で正常です。
- エンジンをかけた後の発進時に、ブレーキペダルを踏み込むタイミングによっては、ペダルにABSが作動したときと同じような振動を感じることがあります。これは、VDCの作動をチェックしている動きで、正常です。
- VDCが作動しているときはハンドル操作時のフィーリング（感覚）が若干変わります。
- 応急用スベアタイヤを使用する場合、必ず車両に搭載されているものを使用してください。
他のタイヤやホイールと組み合わせたもの、また、指定空気圧になっていない場合は、VDCが正常に機能しなくなることがあります。
- タイヤ交換の際は必ずエンジンスイッチをOFFにしてください。
エンジンをかけたままタイヤ交換を行った場合は、VDCが正常に機能しなくなることがあります。

☆6-16、7-8ページ参照

■VDC警告灯/VDC作動表示灯

VDC機能作動時に点滅します。

VDCシステムに異常があると点灯します。



301771

⚠ 注意

- 次の場合は異常が考えられますので、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
 - － エンジンスイッチONで点灯しないとき
 - － エンジン始動後も点灯したままのとき
 ただし、エンジンスイッチを一気にSTART（エンジン始動）にした場合、警告灯が点灯し続けることがあります。再度エンジンスイッチをOFFまで戻し、ONで約1秒止めてからSTART（エンジン始動）にして、消灯する場合は、異常ではありません。
 上記の操作を繰り返しても点灯し続ける場合はシステムの異常です。
- VDCの作動にABSの構成部品を使っているため、ABSの電子制御システムに異常があるときはABS警告灯の点灯と同時にVDC警告灯も点灯します。VDC警告灯とABS警告灯が同時に点灯したときは、VDCはもちろんABSも作動しません。通常のブレーキとしては作動しますので、走行上支障はありませんが、滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
- VDC警告灯のみが点灯したときは、VDC機能やTCS機能は作動しませんがABSは作動します。VDCのついていない車両と同じように扱ってください。滑りやすい路面では注意して走行し、すみやかにスバル販売店で点検を受けてください。
- エンジンを始動してから数分たってもVDC警告灯が点灯し続ける場合は、異常が考えられますのですみやかにスバル販売店で点検を受けてください。

アドバイス

- エンジンスイッチがONで点灯、エンジン始動後消灯するのが正常です。また、次の場合も正常です。
 - － エンジン始動後に警告灯が点灯してすぐに消灯し、その後再び点灯しない。
 - － エンジン始動後に警告灯が点灯したままであるが、その後走行中に消灯する。
 - － 走行中に点灯してもその後消灯し、再度点灯しない。

☆3-35ページ参照

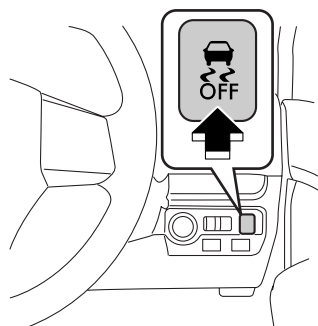
- 寒い朝などにエンジンを始動させた場合、消灯するまでに時間がかかる場合がありますが、これは異常ではありません。

■VDC OFFスイッチ

下記のような特殊な状況下において、VDCを一時的に解除して駆動輪を適度にスリップさせた方が、走破性が向上するという場合に使用します。

- 雪や砂利などで覆われた急登坂路で発進するとき
- むかるみ、深い雪にタイヤが埋まった状態から脱出するとき

VDCが解除されるとVDC OFF表示灯が点灯します。復帰させるときにはもう一度VDC OFFスイッチを押します。



301772

運転するとき

注意

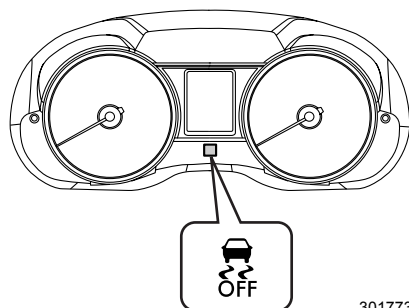
VDCは、ブレーキ制御、エンジン出力制御により横滑りなど車の不安定な挙動を抑えるシステムです。必要なとき以外は、VDCを解除しないでください。また、VDCを解除したときは、路面状態に応じた安全な速度で慎重な運転を心がけてください。

アドバイス

- VDCを解除しても一部のブレーキ制御は作動します。作動中はVDC作動表示灯は点滅します。
- VDC OFFスイッチを30秒以上押し続けるとメーター内のVDC OFF表示灯が消灯し、以後の操作を受け付けなくなりますが、これは正常です。この場合は、一度エンジンスイッチを切り、再度エンジンを始動すれば元に戻ります。
- エンジンを始動するとVDCは自動的に作動可能状態になります。

■VDC OFF表示灯

VDC OFF表示灯は、VDC OFFスイッチを押してVDCを解除したとき点灯します。



301773



アドバイス

エンジンスイッチがONで点灯、約2秒後消灯するのが正常です。

リヤビューカメラ

リヤビューカメラはエンジンスイッチがONのとき、セレクトレバーを[R](CVT車)、もしくはチェンジレバーを“R”(マニュアル車)にすると自動的に車両後方の映像をモニターに映し出す装置です。

警告

- リヤビューカメラの映像の距離感覚は、実際の距離とは異なります。
- モニターに映し出される映像の範囲には限界がありますので、直接目視やミラーで後方および周囲の安全を確認し、ゆっくりとした速度で後退してください。モニターのみで確認し後退すると、車をぶついたり思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- カメラ、スイッチ、配線類を分解したり改造しないでください。万一煙が出たり変なにおいがした場合には、スバル販売店で点検を受けてください。そのままご使用になると、事故、火災、感電の原因となります。

注意

- 高圧洗車機を使用して洗車する場合には、カメラ周辺部に直接水をかけないでください。レンズに水が入り、結露などが発生したり、故障や火災、感電の原因となります。
- カメラは精密機器のため、強い衝撃は与えないでください。故障や火災、感電の原因となります。
- カメラに泥や雪などが付着して泥が固まったり、凍り付いてしまっているときに、棒などでたたいて泥や、氷を落とすと、破損して火災、感電の原因となります。水またはぬるま湯をかけて洗い流し、柔らかい布で拭きとってください。
- カメラや配線類に火気を近づけないでください。破損や発火の原因となります。
- エンジン停止中に長時間使用するとバッテリー上がりの原因となります。

アドバイス

- バッテリーまたはヒューズを交換した後に、“このナビを以前使用されていた車から新しい車へのせかえされましたか？”というメッセージが出る場合があります。ナビを他車から交換していない場合は、必ず“いいえ”を選択してください。正しい距離・車幅マーカー（補助線）が表示されなくなる場合があります。
- アルコール、ベンジン、シンナーなどでカメラを拭かないでください。変色などの原因となります。汚れを落とすときには、うすめた中性洗剤を染み込ませた布で拭き、柔らかい布で拭きをしてください。

次ページへ ⇒

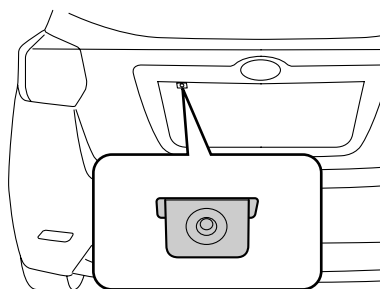
運転するとき

⇒前ページより

- ボディワックスをかける場合は、ワックスがカメラにつかないよう注意してください。もし、ついてしまった場合にはきれいな布に水でうすめた中性洗剤を含ませワックスを落としてください。
- レンズカバーは傷がつきにくいよう、ハードコートしていますが、ボディ洗車する場合やレンズを拭き取る場合に、傷をつけないように注意してください。
- レンズカバーに洗車ブラシなどは使用しないでください。リヤビューカメラの映像が見つらなくなることがあります。
- レンズに強い光が入ると、光源を中心に白い光の縦線が入る場合がありますが、故障ではありません。
- 蛍光灯などの照明の下で、画面にちらつきが出ることがありますが、故障ではありません。
- リヤビューカメラの映像は実際の色味とは多少異なることがあります。

リヤビューカメラの位置

番号表示灯（ライセンスランプ）の横にあります。



301774

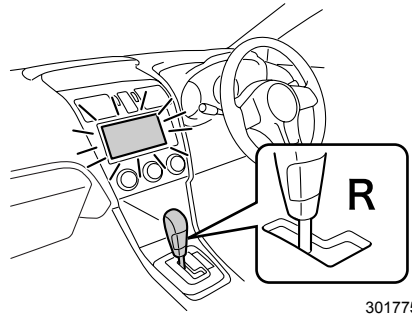
リヤビューカメラの使用方法

■リヤビューカメラの映像を見るには

リヤビューカメラは、セレクトレバーを **R** (CVT車)、もしくはチェンジレバーを“R” (マニュアル車) にすると自動的に車両後方の映像を表示します。

R以外にすると、切り替わる前の画面表示になります。

- ① 車両のエンジンスイッチをONにします。
- ② セレクトレバーを **R** (CVT車)、もしくはチェンジレバーを“R” (マニュアル車) に入れます。



301775

🏠 アドバイス

- リヤビューカメラの映像は、どの画面表示よりも優先して映し出されます。(ただし、ナビゲーションシステムが起動中は映像は映し出されません。)
- リヤビューカメラの映像は、車両のバックミラーやサイドミラーで見る場合と同じように、左右が反転して映し出されます。
- 次のような場合には、リヤビューカメラの映像が見づらくなることがありますが、故障ではありません。
 - － 暗いところ (夜間、トンネルなど)。
 - － カメラ付近が極端に熱いとき、または寒いとき。
 - － カメラのレンズカバーが汚れているとき。
 - － 直接カメラに強い光が入るとき (映像に白い縦線など影響が出る事があります)。
 - － レンズカバーに水滴がついたとき、または湿度が高いとき。(雨天時など)

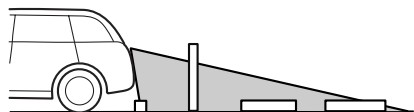
画面に映る範囲

■画面に映る範囲

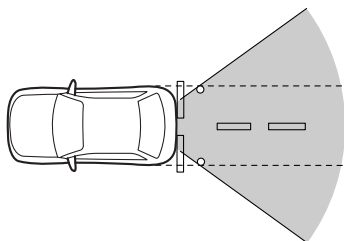
- バンパー後端から車の後方が映ります。ただしバンパー両端付近やバンパーの下にある物は、映りません。
- カメラより上の部分は映し出されません。障害物の上部に突起などがある場合、画面上では確認できません。
- リヤビューカメラの映像の距離感覚は、実際の距離とは異なります。

リヤビューカメラ

映し出される範囲

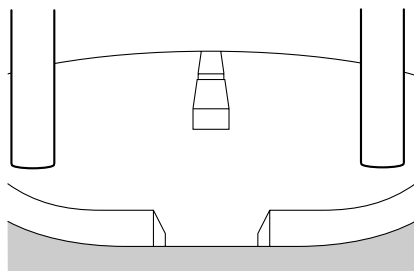


301776



301777

カメラからの映像



401097



注意

リヤビューカメラの映し出す範囲には限界があります。必ず直接目で確認しながら後退してください。

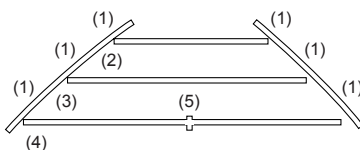
距離・車幅マーカ（補助線）

距離・車幅マーカ（補助線）は、実際の距離と画面で見ている感覚を補助するための目安です。

セレクタレバーを[R]（CVT車）、もしくはチェンジレバーを“R”（マニュアル車）に入れるとモニターに後方の映像とともに、距離・車幅マーカが表示されます。

- (1)車幅線（斜め縦線）
- (2)バンパーから約2m（横線）
- (3)バンパーから約1m（横線）
- (4)バンパーから約0.5m（横線）
- (5)バンパーから約0.5mと車両中心を示す十字線

後退時は、直接後方を確認しながら運転して下さい



車両周辺を直接確認して下さい

301677



注意

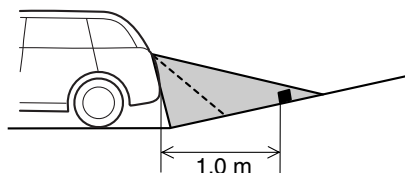
- 後退時は、距離マーカに頼らず直接目で確認してください。
- 実際の位置と距離マーカの指示が異なる場合があります。
- 搭乗人数や積載状態によってズレが生じます。
- 坂道や車両が路面に対して傾いている場合には、実際の位置とズレが生じます。

■ 画面と実際の路面との誤差

距離マーカは車両に積載がない状態での水平な路面に対しての距離を示しています。積載状況、路面状態などにより実際の距離と異なる場合があります。

● 後方に上り坂がある場合

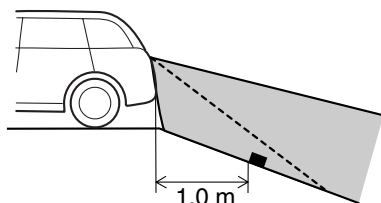
実際の距離より、画面上の距離のほうが遠くにあるように見えます。



301778

●後方に下り坂がある場合

実際の距離より、画面上の距離のほうが近くにあるように見えます。



301779



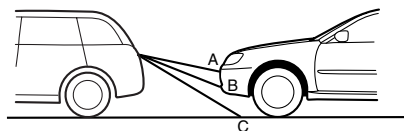
アドバイス

積載時は、後方が上り坂と同じように実際の距離より遠くあるように見えます。

●距離マーカーの特性

距離マーカーは、路面上の距離を映し出すため、立体的な物体が後方にある場合、正しい距離表示ができません。

- A 2m表示ライン
- B 1m表示ライン
- C 0.5m表示ライン



301780

故障かなと思ったら

■リヤビューカメラの映像が映らない

- セレクトレバーは[R]になっていますか？
- チェンジレバーは“R”になっていますか？

■リヤビューカメラの映像の映りが悪い

- レンズカバーが汚れていませんか？
- 太陽の強い反射光や後続車のヘッドランプの光が直接レンズにあたっていないですか？

■距離・車幅マーカー（補助線）が表示されない

詳しくはスバル販売店にご相談ください。

ハンドル

パワーステアリング

アドバイス

- 油圧パワーステアリング装備車は、ハンドルを切ると、パワーステアリングポンプの作動音が変わることがありますが、異常ではありません。また、ハンドルをいっぱいに切った状態ではさらに音が大きくなりますが、異常ではありません。
極低温時はオイルが硬くなり、エンジンを始動したとき音がしますが異常ではありません。数分で消えます。
- 電動パワーステアリング装備車は、エンジン始動後約2秒後にパワーステアリングが作動します。

車庫入れなどでハンドル操作を繰り返したり、ハンドルをいっぱいまで回した状態を長く続けた場合は、ハンドル操作が徐々に重くなる場合があります。これはコンピューターやモーターが過熱することを防止するためにシステムの作動を制限している現象で、異常ではありません。

しばらくハンドル操作を控えるとシステムの温度が下がるため、通常の操作力に戻りますが、システムが過熱する使いかたを繰り返すと、故障の原因となります。

MEMO